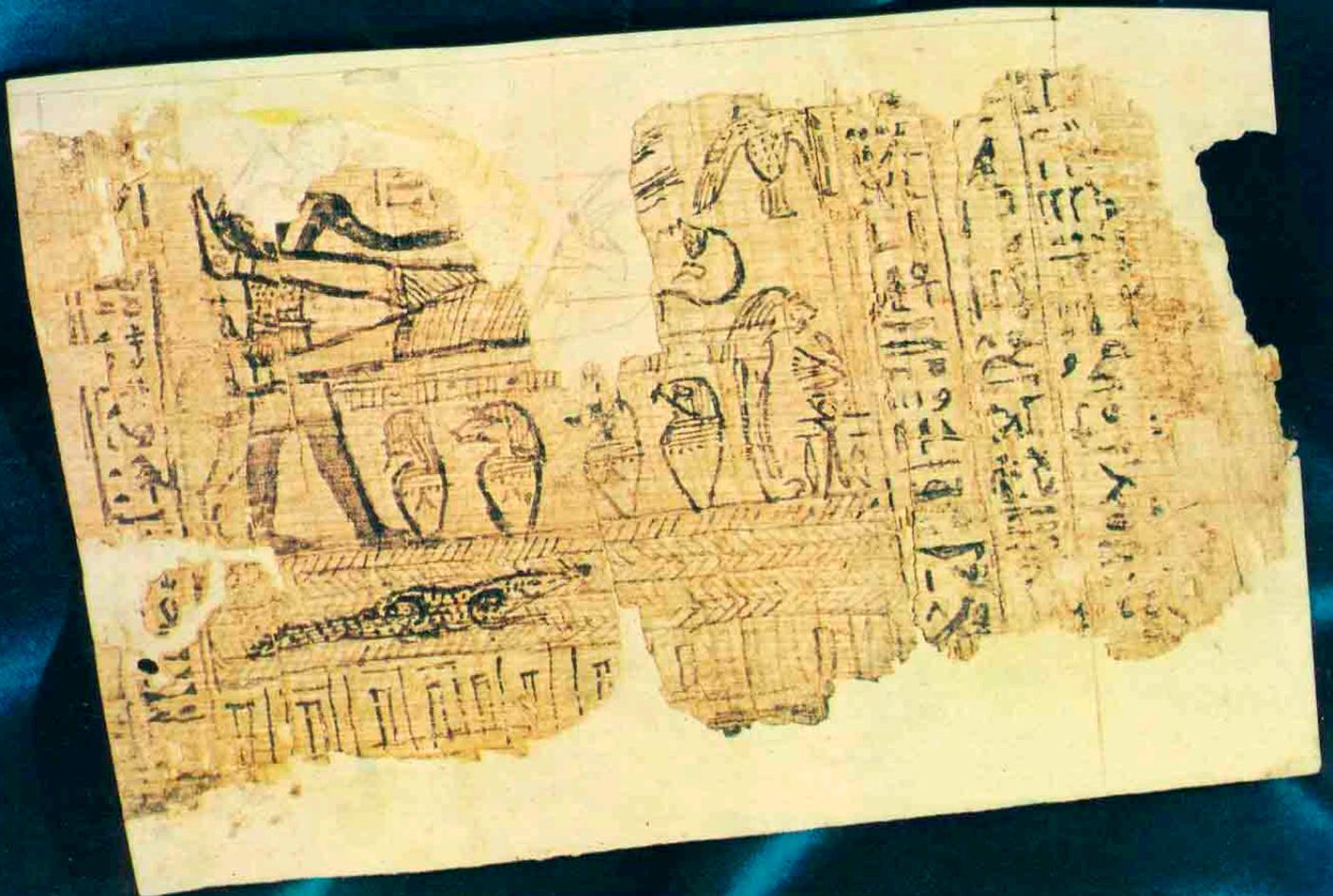


# 聖徒の道

5



# 靈感あるメッセージ



12使徒評議員

エズラ タフト ベンソン長老

私たちは全世界で最も偉大な業に従事しております。そうです全宇宙で最も偉大な業に従事しているのです。御父の子供である私たちの兄弟姉妹を救い最高の栄に導く業にたずさわっているのです。私たちは真理の管理人、すなわち今まで実践され、これからも我々の人となり築き上げ、救い、高める救いの原則の管理人であります。

主は私たちに広範な組織のあらましとその目的の数々を教えられました、それを実行する多くの方法を私たちの考えにまかせておられるのです。この点において相互に調整し指導する必要が生じてくるのであり、賢明な責任の委譲などというプログラムの各分野について検討がなされる理由もここにあるのであります。これこそ主の組織であり、その中において私たちは働いているのであります。

間違いをおかしたり、弱さを持っているにもかかわらず、天父が愛しておられる自発的に働く子供たちと共に、私たちは働いているのであります。

責任の委譲には何の強制も脅迫もあるはずがなく、私たちが賢明に委譲をする限り、よりよくみたまを求めて得られるにちがひありません。

## も く じ

### 予言者のことば

「聖徒たちをととのえるために」……………大管長 デビッド O. マッケイ……67

### 特集記事

「古代エジプト」……………ドイル L. グリーン……69

「再発見されたエジプトのパピルス」……………ジエイ M. トッド……72

### 管理監督会のページ

「教育の目的」……………管理監督 ジョン H. ヴァンデンバーグ……77

### 扶助協会

「教会歴史に貢献した女性」……………ケネス W. ガドフレー……79

### 日曜学校

「心のランプを輝かそう」……………リン F. ストッダード……82

### MIA

「MIAにおける成長の10年」……………85

### 若人のページ

「わが家の出来事」……………ロザリンド ファンズワース……87

### 系図

「家族のきずな」……………89

伝道部長会メッセージ……………第二副伝道部長 田中健治……91

ローカルニュース……………92

「母をたたえる」……………裏表紙

## 子 供 の ペ ー ジ

「金の星」……………ルシル C. リーディング……17

「ペギーの二つのおくり物」……………ロイス アン ウィリアムス……19

「イスラエルの少年 ドーマ」……………リーランド G. グリッフィン……21

### ・新しい教会幹部召さる

4月の138回年次総大会において次の4名があらたに支持された

アルヴィン R. ダイヤー  
使徒大管長会副管長に  
マリオン D. ハンクス長老  
12使徒評議員会補助に

ハートマン レクター 長老  
ローレン C. ダン 長老  
七十人最高評議員会  
会々員に

## 教会歴史

### ・5月15日

1829年：アロン神権回復  
さる

### ・5月17日

1884年：ローガン神殿献  
堂さる

## 今月の表紙

写真上：アブラハムの書のパピルスが発見された墓

写真下：パピルスの実物大写真  
(これから予言者ジョセフ・スミスはアブラハムの書に写しとった)



大 管 長  
デビッド O. マッケイ

## 聖徒たちをととのえるために

そ して彼は、ある人を使徒とし、ある人を予言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧者、教師としてお立てになった。それは聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ4:11~13)

これがあなたがた神権を持つ兄弟や会員たちがコーリレーション(相互調整)プログラムを口にする時に心すべきことであります。なぜならば皆さんは至高者のしもべだからであり、主はあなたがたに神の聖徒たちを教化し、個人個人を完成させるために、聖徒たちをととのえ、導きと教えを施す責任を与えられたからであります。

現在コーリレーションプログラムの一部として行なわれているホームティーチングと家庭の夕べの二つのプログラムの非常に大切なつながりについて述べてみましょう。

ホームティーチングは人生に関するあらゆる面において、神の子供たちを育て導びき、靈感と助言を与えるためのきわめて必要な価値ある機会の一つであります。ホームティーチングはワード部監督(支部長)の指示のもとに、神権定員会によって行われ、各家庭に福音のメッセージをもたらし、また生命と救いと兄弟愛のメッセージをもたらすものであり、教会の教えを広める最良の機会が家庭にあるのであります。

### <予言者のことば>

ホームティーチングを完全に準備するに当たって次の三つのことを心にとめておく必要があります。

先ず第一に訪問し教える相手のことを良く知ること、それぞれの家庭が違いうように家庭の一人一人も異っているからホームティーチングの方法やメッセージは各個人に応じ、その問題や欲求に応じて変えられなければなりません。

ホームティーチャーとして私たちはワード部監督（支部長）の代理として、また神権者として数家族を担当するように委託されているが、その責任を完全に遂行するために、担当家族の大人、青年、子供たち一人一人の態度、活動、興味、問題、仕事、健康状態、幸福、計画と目的、肉体的、物質的、霊的欲求や環境などすべてにわたって絶えず知っていなければなりません。

第二にどんなことを教えたら良いかということをよく知ることです。「イエス・キリストは世の贖い主であり、ジョセフ・スミスとその後継者たちは神の予言者であること、福音は回復され末日聖徒イエス・キリスト教会は神から導びきを受けており、その教えをすすんで聞き入れ実践しようとするすべての人々に幸福と永遠の生命と昇栄をもたらしものである」と言うことを教えるのがホームティーチャーの務めです。真剣な証詞と誠実な奉仕により、私たちが教える人々に生き甲斐と目的を与え教会内に十分な仲間を持ちたいという望みをもたらすのであります。

第三はどのように教えたらよいかということをよく知ることです。教義と聖約の言葉を引用してそれぞれをホームティーチングの目的に適用してみるならホームティーチャーは「各会員の家庭を訪れて、彼らが声を挙げてみよそかにも祈りを為し、すべて家庭の務めにいそむよう勧めをなすなり」「また常に教会員を守護し彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす」であり、「このことは必要があればどんなことがあっても何時でも、どのようにしても常に会員たちを助けるという意味であります。

ホームティーチングは神聖な務めであり召しであります。すべての家庭、すべての人の心に神聖な精神をもたらすことがホームティーチャーである私たちの義務であります。

神の子供たちを教える業を愛し最善をつくすなら、この立派で献身的な教師たちは、はかり知れない心のやすらぎと喜びまた満足感に満たされるに違いありません。

私たちは家庭の夕べの手引を用いるにあたり、各家庭の状況にあわせて融通性をもって用い、シオンに子供を持つ両親の務めは、子供に主の前に理解と祈りをもって正しく歩むように教えることであり、また家庭における失敗は他のいかなる成功をもってもつぐなえないということを自覚されますように再び強調いたします。

私たちは、両親が家族をまわりに集めて、真理と正義、家族の愛と貞節を教えるようにお勧めします。家庭は正しい生活の基であり、いかなる機関も家庭にとって代り、その大切な機能を果たすことはできないからであります。この困難な時代における諸問題は、家庭における愛と正義、教えと模範仕事に対する献身による以外には、他のいかなる所、いかなる機関、いかなる方法によってもよりよく解決されるはずがありません。

神が両親を信頼して委ねられた子供たちを、親しく教え世話をし、あなたがた自身の家庭を見守る時に、皆さんの上に祝福がありますように。

あなたがたがそうする時に、家庭の愛が増し、両親に従順になり、イスラエルの若人の心に信仰が強まり、悪の力と誘惑に打ち勝ち、正義と平和を選ぶ力を得て、彼らは天父の家庭の中に永遠の場を備えるのであります。

この教会を導いているのは神であります。教会に、家族に真実であり、忠実でありますように。あなたがたが独断的にふるまうのではなく、親切な父や愛情豊かな母の模範によって、子供たちを守り導き、家庭とあらゆる生活に神権を発揚して教会の強化につくして下さいますように。

われアブラハム、旅をなしなお進みて南の方に行けり。然るにその地に引き  
つづき飢饉ありければ、われアブラハム、エジプトにとどまらんため、かし  
こに下らんと定めたり……………

# 古代エジプト

パレスチナに隣接する古代のエジプトは  
予言者たちの避け所であった

ドイル・L・グリーン

インプルーヴメント・エラ主筆

かつて予言者ジョセフ・スミスの所有物であったパピルス写本集が最近発見され教会に戻った。この中の一部は高価なる真珠のアブラハムの書に集録されており、この発見により、古代エジプトに対する新たな関心がひき起されている。

実際にエジプトは五千年以上遡る歴史を持った古い土地である。もしその地がこの貴重なアブラハムの書を、数千年も抱え守って来た墓のある荒蕪たる丘であったとしても、このナイルの地は、我々の心中には、誉れある地にほかならない。

エジプトはパピルスの保存者以上のものである。この土地はパレスチナが飢饉であった時、アブラハムとサラをかくまひ養った。その後この地はヨセフの家となり、従って聖地が再び飢饉になった時、父ヤコブとその家族の避難所となったのであった。実際に「ヨセフのことを知らない新しい王が、エジプトに起った」(出エジプト記1:8)ときにイスラエルの民は奴隷となったのである。モーセが彼らを奴隷から解放し約束の地まで導き帰るまで、このアフリカの地はイスラエル人に家を与えてきた。エジプトが幼児のイエスのために安全な避難所となったことに感謝することを忘れてはならない。ヨセフが天使から指示され、幼児のキリストをその母と共に連れ去って、悪王ヘロデの殺りくから逃れて助かった

は、このエジプトの地においてであった。

アブラハムの書には、エジプトは最初ハムとエジプタスの娘であった女によって発見されたと書かれている。

「エジプトの地初めて一人の女によりて発見せられしがこの女はハムの娘にしてエジプタスの娘なりき……。

この女がエジプトの地を発見せし時、そは水の下にありたれど、後にこの女はその息子らをこの地に定住せしめたり…

さてエジプトの最初の政府は、ハムの娘なるエジプタスの長男パロによりて樹てられ、そはハムの政府の慣しによりて族長政府なりき。

パロは義人なりければ、その王国を打ち建てて、生涯その民を賢明且つ公平に審き、最初の世代、すなわち最初の族長統治の時代に於ける先祖によりて樹てられたる制度にならわんことを熱心に努めたり。その制度とは、アダムの統治およびノアの統治の時代に於けるものにして、ノアは彼の先祖にして彼を地の祝福と知恵の祝福とをもて祝したれど、神権に就きては彼を咀いたり。」(アブラハムの書1:23~26)

聖書中にエジプトが初めて出てくるのは創世記12章である。その聖句は、アブラハムがハラランからカナンに到着した時、カナンの地は飢饉であったらしく、アブラハムがエジプトへ行ったのはこれを避けるためであったと述べている。この話はアブラハムの書の中の彼の説明によって証明された。

「われアブラハム、旅をなしなお進みて南の方に行けり。然るにその地に引きつずき飢饉ありければ、われアブラハム、エジプトにとどまらんため、かしこに下らんと定めたり、そは飢饉その地に甚しかりければなり。」(アブラハムの書2:21)

アブラハムがエジプトでどこに行っていたかで聖典には何も示されていない。その当時政府とパロの家のあった所はエルサレムから約443キロの地、今日のカイロ附近のメンフィスであったかも知れない。あるいはナイル河の上流約600キロのテーベであったかも知れない。とにかく1835年の7月に予言者ジョセフ・スミスの手に入ったミイラとパピルスは昔のテーベ市の近くで発見されたのである。

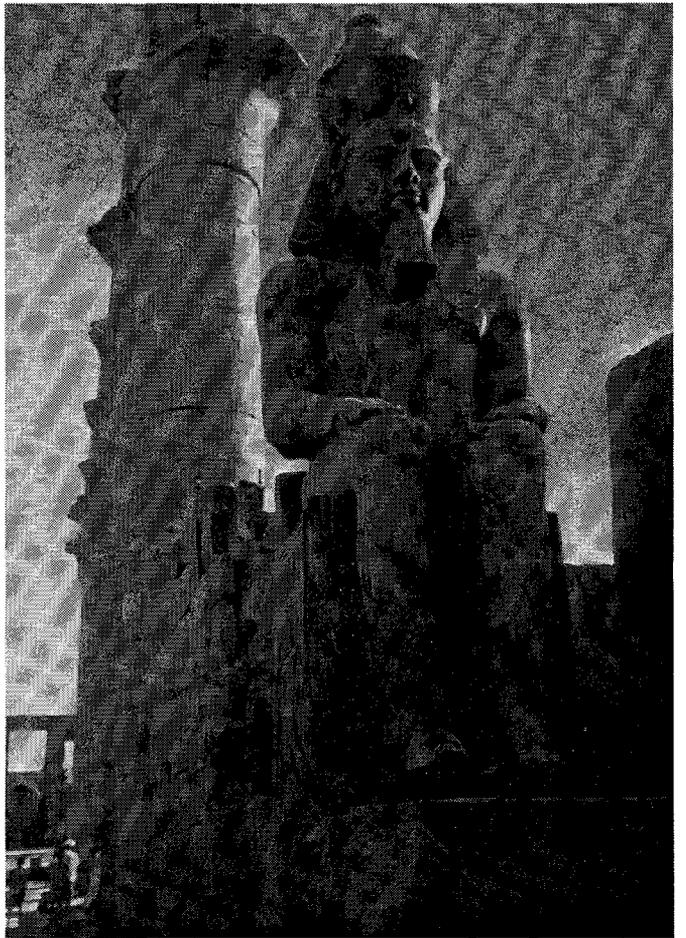
アブラハムとこのパピルスの故に、エジプト上部(カイロ附近からスーダンまで)を訪れる末日聖徒は、今日の都市ルクソールやカルナック附近の神殿や墓に特別な興味を持つのである。

カルナックの神殿はかつて人間によって建てられた最大の円柱建造物であると言われている。一枚石の柱、巨大なパロの像などは目を見はらせるに充分である。

ある朝ちょうど太陽の昇る時、我々はナイル河を渡って西テーベの墓地と葬儀神殿を訪ねた。私の興味を大いにそそったのは王の墓地の谷にあるツタンカーメンの墓であった。この途方もない発見がなされたとき私は小学校二年生であった。まだ少年であった私はこの素晴らしい発見の陰謀とロマンスと富の話に非常に印象づけられ、それらはやさしい先生によって、私の心に深く刻みつけられたのであった。これは墓泥棒によって荒されていなかった墓の一つで、それは科学者たちに古代のエジプト人たちの生活と時代について、よりくわしく学ぶ豊富な機会を与えたのである。豊かな宝のほとんどがカイロの博物館に移されたが、あるものは訪問者を楽しませるために墓の中に残された。

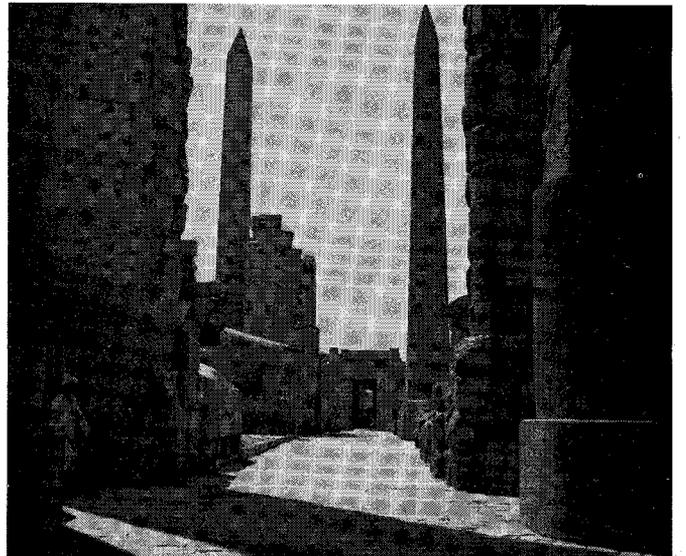
我々が案内人に33番の墓に案内するように頼むと案内人は驚いた様子であった。我々が何故その墓を特に見たがるのか理解できなかったからである。

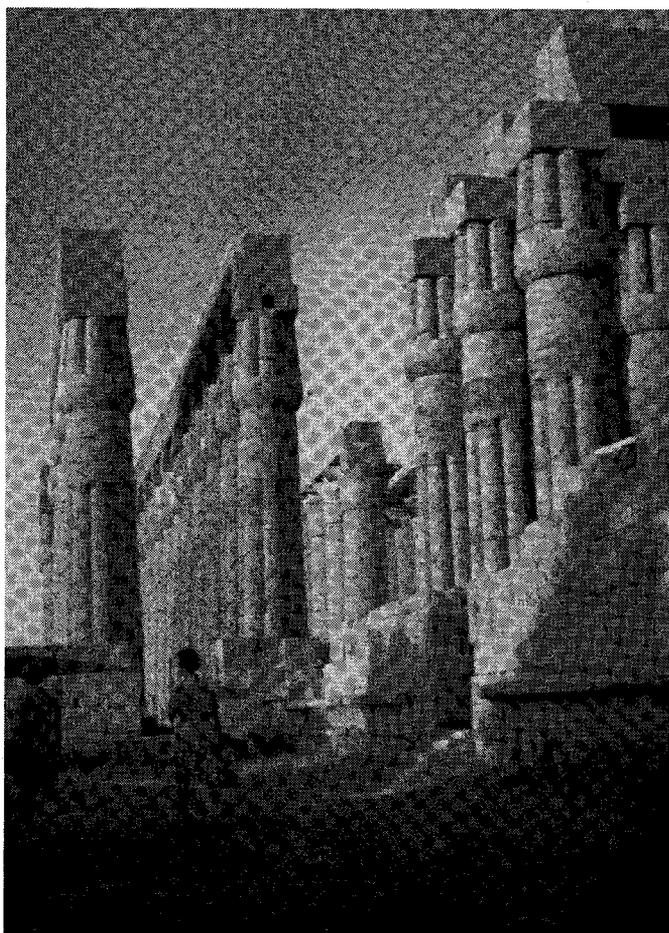
我々は注意深く調べて、さらに深い所で、もっと精巧に飾られた高貴な墓をいくつか探し出した。その上、案内人は、33番の墓は倉庫設備として利用されているので中に入れないと言った。しかし我々は、その墓は我々にとって特別な意味のあるものであるからと説明してきかなかつた。ある学者によると、33番の墓は、教会の会員たちに大きな意味をもたらしたアブラハムのパピルスが数千年も、置かれていた所であ



上 ルクソールの神殿には、大切に保存された巨大なパロの坐像がある。像と円柱の高さは左下の人物から想像できるであろう。

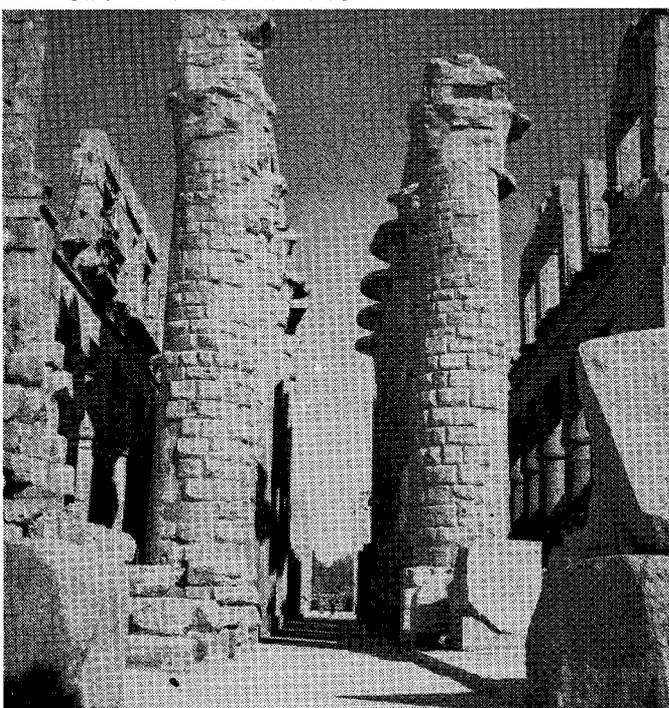
下 カルナックの神殿にある柱は、高さ約30mあり、いくつかの石が積まれている。石の重さは350トンある。





上 ある学者たちはエジプトの神殿のあるものは、完成までに2000年を要したとっている。初期の王たちによって建てられた神殿は、後の支配者によって増改築された。この神殿はルクソールにある。

下 エジプトの円柱は、ほとんど滑らかで模様が刻まれているが、この柱は未完成である。



る。我々は墓の外の窪地に立った時、アブラハム、それに彼の書いたパピルスの信じられないほどの保存、数千年間保存されて予言者ジョセフ・スミスの手へ渡ったという驚くべき話について語り合い考えた。

我々はまたもう一人のエジプトに売られ、ついに国の宰相にまでなったヨセフについて考え語り合った。このナイルの地におけるアブラハムの話の始まりは歴史家によって紀元前1728年と定められている。その時から、イスラエル人の出エジプトの時代の紀元前約1491年までは、当然イスラエルの民とエジプトとは密接なつながりをもっているのである。予言者ジョセフ・スミスはパピルスの巻物の一つは、エジプトのヨセフの書を含んでいると記録している。（教会歴史第二巻236頁）知られる限りでは、このパピルスに書かれていたものは決して翻訳されなかったと言われている。

我々はエジプト旅行の間中、ナザレのヨセフがマリヤと幼児のイエスを連れて逃げた時、どこに居たのであろうかと思いつめぐらした。多くの権威ある探究家たちは、彼らはカイロの近くのユダヤ人居住地へ行ったのであろうと推断している。ヨセフが彼自身の民の間に避難所を求めたことは当然のことのように思われる。もしも彼らがユダヤ人居住地を訪れたとしたら、あの巨大なピラミットやスフィンクスの顔を見上げてに違いない。スフィンクスはおそらく世界で最も古い記念碑だと言われ、キリスト誕生の時、すでに2500年を経過していたと思われている。スフィンクスはライオンの体に人間の顔をしており、その長さは約80メートルで、高さは約22メートルある。その顔は二番目のピラミットを建てたパロ・ケフレンの顔であると言われており、ギザのピラミットと呼ばれる最大のピラミットはパロ・ケオプスのために建造された。それは一個二トン半の重さの石灰石と花崗岩を、二百万個以上用いて建てられた。カイロからアスワンまでナイル河に沿って今もなお見られる古代エジプト人によるこの驚異の業は、今日の人にも想像を絶するものがある。エジプト人が世界に貢献した広範囲にわたる学問は、永続的な影響力を持っている。しかし我々多くの者にとって、エジプトに対する最も強い関心事は、それがパレスチナに隣接し、予言者たちの避難所となり、神によって、その正しい目的をとげる助けとなってきたということなのである。

我々はこの簡単な背景と写真が適当な予備知識となって、パピルス発見の記事に興味を添える助けとなるように望むものである。

# 再発見された エジプトのパピルス

ジェイ・M・トッド

イムプルーヴメントエラ編集員



ニューヨークの贈呈式にてトーマスP. G. ホヴィング博士よりパピルスを受けとるターナー副管長

最近発見されたエジプトのパピルス程回復された福音に広い関心を引き起したものはないであろう。この中の一つが予言者ジョセフ・スミスにより、アブラハムの書を書く際に用いられたものである。そのパピルスはすでに1871年のシカゴの大火で燃えてしまったと長い間思われていた。この驚くべき発見は前ユタ大学中東センター部長アジズ・S・アチャ博士がニューヨーク博物館のパピルスコレクションを乱読していた時になされた。その後一年余りたった1967年の11月27日、ニューヨーク市において、それらはメトロポリタン博物館から教会へ提供された。

十一の写本のコレクション中の一つは、ジョセフ・スミスが高価なる真珠、アブラハムの書の前文の「写しの第一」を写しとった原版であることが判明した。写本と共にあった1856年5月26日付の予言者ジョセフ・スミスの未亡人エマ・スミス・ビダモンとその息子ジョセフ・スミスの署名した手紙によると、そのパピルスは予言者の所有物であったことが証明された。

パピルスの一部には明らかに旧来の象形文字（絵に似た聖なる碑銘）とヒエラティック（象形文字を続け書きし速記体にしたもの）によって書かれたエジプトの葬儀文が含まれている。これはエジプトのミイラと共に埋葬されるのが慣わしであった。このような葬儀文には、死者が霊界へ無事に行く助けとなるはずの「死者の書」の語句がよく含まれていることがある。今のところ、その他のパピルスはアブラハムの書と直接関係があるかどうかまだ判明していない。

三つの写本の台紙（こわれ易い写本を保存するため明らかにジョセフ・スミスによつてはられたもの）の上に書きとめてある文字と手がきの地図はすべてジョセフ・スミスの自筆に違いないこともわかった。その貴重な価値についてはまだ確認されていないが、末日の歴史家にとっては非常に興味をそそられるものである。

写本のコレクションはニューヨーク博物館で、世界各国の報道陣も出席し、メトロポリタン博物館長トーマス・P・G・ホヴィングから大管長会のN・エルドン・ターナー副管長に手

渡された。それはソルト・レーク市の教会本部にしばらく、展示された後に、ブリガム・ヤング大学言語学教授であるヒュー・ニブレー博士に手渡された。

予言者ジョセフ・スミスが不思議な方法でパピルス原本のと四体のエジプトミイラを入手した話によく知られている。それは非常に興味をそそる話である。これと同様に、メトロポリタン博物館においてアジズ・S・アチャ博士のパピルス発見についての話にも興味あるものである。それは彼自身が次のように話している。

「私は当時世界キリスト教と東方キリスト教について教えるかたわら、ある本を書き始めていた時、メトロポリタン博物館へ参考になる書類、パピルス、絵等の資料を探しに行った。それは1966年の早春であったが、日付はおぼえていない。私の書物は出版される運びになっており、私は補足する資料を探していた。

私が望んだあらゆるものがそろっているうす暗い部屋にいた時ある物が私の目をとらえた。私はそこでもつと探したいと助手の一人に棚の背後にある書庫に案内するように頼んだ。私がそこにいる間にこれらの書類を発見したのであった。私は直ちにその中に絵を見つけた。この絵を見た時、それが高価なる真珠に載せられているものであることがわかった。この種の絵は他のパピルスにもよく見かけるものだが、この絵は特に変わっていた。例えばその上部は欠けていたしパピルスが19世紀の紙ではりつけられてあるのも認めることができた。上部は鉛筆で書き加えられて完成されていたが、それは明らかにジョセフ・スミスの手によつて書かれたもので、彼はパピルスの上部が欠けた時にそれを持っていたに違いない。明らかに彼自身の手でつぎたした紙に描いたものである。また実物がそうであったのかミイラの両手と片足は上に挙げられている（普通ミイラは真直ぐに横たえられている）。これも非常に変わっていた。このパピルスはエジプトのものに間違いはないが、それが何を現しているのか私には全く分らなかった。

さて私はこれを見て勇気づけられて、さらに探し始めた。私は、もっと多くのパピルスが積み重ねられてあるのを見て神の導きを感じた。これらの書類と共にジョセフ・スミスの妻と息子と誰か他の人が署名しているもう一つの書類が見つかった。それによって、これらのパピルスはジョセフ・スミスの所有物であることが証明された。

1918年にヒューザーという夫人が博物館を訪ねてあるパピルスを持っていると語ったが、話しあいが見つからなかった。そ

して1947年にパピルスは博物館の所有になったが、それからエジプト考古学の担当者が変わって、このことは忘れられてしまった。



複写1と原本を比較する右からターナー副管長、トーマスP.G. ホヴァイング博士、ジョセフ・ノーブル博士、アジズ・アチャ博士

私はこれらの書類を見て、それを持ち帰った。私はモルモンの社会、彼らが従っているもの、また聖典などを知っているので、即座にこの書類は、このものではない、モルモン教会に属するものであると言った。さいわい博物館の人たちは私のよい友だちであったので私は彼らにその書類を教会に送らせようとした。

私は国際観光ソルトレーク評議会の主任秘書である友人のタザ・ピアースに連絡した。そして私たちはこの発見をモルモンの人々にどのように知らせるか話し合った。彼女は、私がターナー副管長に会見するように提案し、そのてはずをととのえて、はじめの二回の会見に共に出席した。その後私は直接ターナー副管長にあった。

「教会は非常な関心を持っておりそれらのためにはどんなことでもし、またいくらでも支払うでしょう」と云った。その時から私たちは、そのパピルスが教会に移管されるようにじっと働き続けて来たのである。

このようなことを私は決して強引にしないで時間を掛ける主義である。丁寧な勧めと話し合いにより博物館はついにこの問題についての覚書を博物館理事会に提出した。それまでには長い期間がかかった。理事会は想像以上に長い時間をかけて討議し、ついに彼らは博物館にはこれと同種のパピルスが多くあるので、これらの書類を教会から離して保管しておく

必要はないと考えた。

この寛大な決定がなされた時、担当者は私に電話をかけました手紙をくれた。それから一ヶ月ばかりその人がエジプトに行ったのでその間中断したが、彼が戻って来た時、このことに関して非常によい報告をしてくれた。

「とうとう決まりました。あなたがたモルモンにパピルスが渡されます。ですからあなたは友人や教会の大管長のところへ行って、そのために必要な準備をして下さい。」

もちろん、ターナー副管長は私と同様に大いに喜ばれた。彼はマッケイ大管長に報告し、マッケイ大管長も非常な関心を示された。

そこで私たちは贈呈式をどのようなに行うかを決めた。

私はこのように有名なターナー副管長とトーマス・P・G・ホヴィング博物館長の間に立つて写真をとられたことに非常に誇りと喜びを感じた。館長は非常に重要な人物であり。その助手である副館長ジョセフ・ノーブル博士も同様である。彼ら全員がそこに出席した。そして驚いたことにはパピルスは安全に保管されるように立派な箱に入れられてあった。

けれどもその日の朝私はパピルスだけでなくパピルスといっしょにあった大切な書類もそこにあるかどうかを確認するためにその大事な式に時刻よりずっと早く行った。それらの書類は19世紀の頃に書かれたもので色あせていた。私は博物館がその写真をとったことに気がついた。もちろん彼らは以前にも写真をとろうとしたがそれは非常に色あせた青い紙だったのでよく出なかった。そこで彼らは赤外線写真をもって原本を写しとったので写真は原本よりはるかに鮮明になったのである。

私はジョセフ・スミスの手にあったパピルスの発見に魅せられてしまった。けれども発見はそれで終わってしまわなかった。その朝私はパピルスを手にして上げたり下げたりくり返し見たところパピルスがはりつけられてある紙の裏に、私が思うのにジョセフ・スミス自身の手によって書かれた記事、地図、市民名簿その他モルモンの歴史にとって最も貴重な資料を発見した。三枚の台紙の裏面は専門家によって調査されねばならない記事と地図が一ぱいに書かれてあった。私はその専門家ではないが、私はその原本を見極める目を持っており、このパピルスは偽物でなく、キリスト以前の、エジプトパピルスの原本であることがわかった。

私はエジプト人が用いていたインキを知っており、その本物と偽物の違いを知っている。パピルスの書き物は普通ミイ

ラと共に置かれており、いろいろな種類があったが、来世への安全な通行をさせる「死者の書」は大切なものである。パピルスはある時には着色されている。ご存知のようにパピルスには青、黄金、及び赤色のものの三種類があり、それは、特殊なものである。そこに使われているインキは普通、すすとにかわでつくったものであるので永持ちする。思うにこれらの巻物は、この種のインキで書かれたものである。通常祭司が書き彼らは最も熟練していた。彼らは葦のペンをうい先を尖らせるために真中から裂いた。

エジプト人は葦をうすく裂いて縦横に積重ねそれを木槌で打ってからにかわではりつけそれを書こうとする文書の目的に合せて切った。普通長く続いたものは巻物につくられ、このパピルスはそのようにつくられていた。」

みなさんはその式の翌日にこの発見の記事がエジプトの有名な新聞の第一面に書かれたのをご存知ですか、みなさんはこの発見がどんなに人々の注目をあびたか驚かれるだろう。そしてエジプト人は、この文書が現れたことを非常に喜んだことは明らかである。

アチャ博士がそれを発見し、ジョセフ・スミスが、アブラハムの書の翻訳の一部に用いた写本であると強くその真実性を証明したという事実は、極めて重大なことである。アチャ博士はエジプト及びアラビヤ写本の研究者として世界的に認められた人である。

彼は著名な三大教授の一人で、ミシガン、コロンビヤ、プリンストン、リヴァプール、ロンドン、ボン、チューリッヒ、カイロ及びアレキサンドリヤの諸大学における講義とその著書は、非常な関心をもたれている。

アチャ博士の発見について、丁度ジョセフ・スミスが最初にエジプト人のミイラとパピルスを受けた時にパーレイ・Pプラットが言ったと同じようなことが言われた。「たぐい稀なる神の配慮により、この古代の記録は主の僕ジョセフ・スミスの手に入った。」

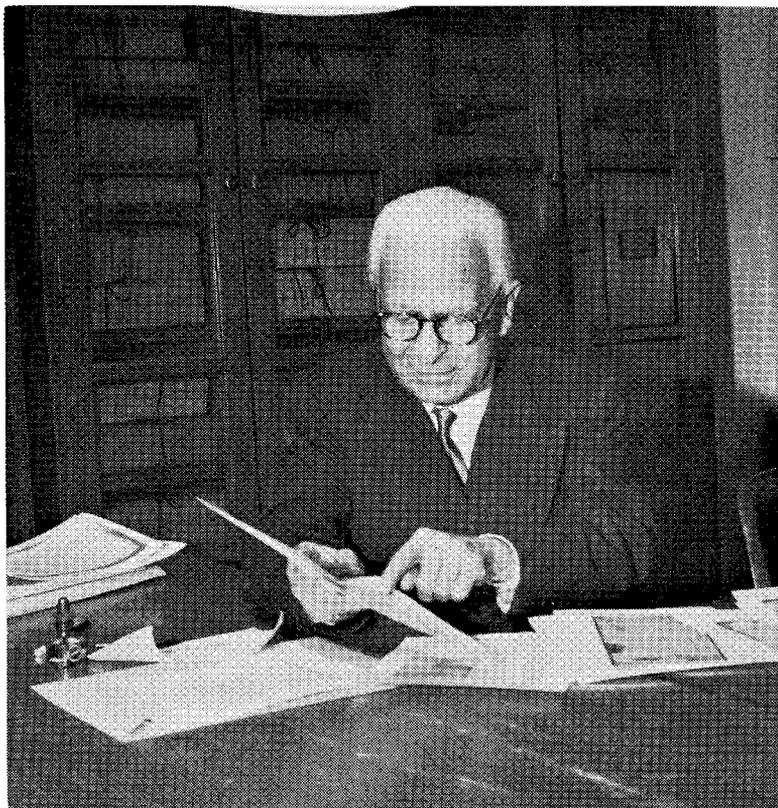
まことにジョセフ・スミスがどのようにしてこのパピルスを受けたかについての話は、神の指示によってなされたものとして非常に魅力あるものである。詳細は未だに判明していない。年々新しい探究が少しずつ新しい情報をつけ加えている。けれどもこのエピソードの重要な点は一般の出来事に一致していることである。すなわちナポレオンの1798—99年のエジプト征服は、世界の注目をパロの地に向けさせ、エジプトの地下の墓や古代墓地はたちまちにして科学的探検家と墓

泥棒の活躍の舞台となった。これらの初期の冒険家の一人にピードモントの住人でアントニオ・レボロという人がいたが彼は当時の豪族の一人ベルナルディノ・ドロヴェティの代行者として働いていた。レボロは1817年頃エジプトに滞在中にテーベの地下墓地に入る許可を得た。彼はテーベの近くのガーネと呼ばれる所の近くで墓穴を見つけ、その中に多くのミイラを発見した。彼はその最上のものをドロヴェティに渡したがそのうちのあるものを自分自身で保存した。

彼はその後エジプトを去り、いくつかのミイラを持って、トリエステ経由でフランスに向ったが、その中の11体は最後にアメリカに到着したのである。

1833年4月にミカエル・H・チャンドラーは税金を払って11体のミイラを受取り、棺を開けた。チャンドラーは宝物や高価な物を見出さなかったので失望したが、数本のパピルスの巻物を見つけ出した。神の配慮がもう一度この話の中に入って来たようである。何故ならば、チャンドラーはまだ税関倉庫に居る間に、この都市にはこの巻物を翻訳できる人は誰もいないと聞かされた。しかし、その同じ人（見知らぬ人）からジョセフ・スミスについて聞かされ、ジョセフ・スミスがある力か賜を持っていて、以前に同様の文字を翻訳したことがあると聞かされた。

それから二年余り経った1835年の7月3日にチャンドラー



パピルスとエマ・スミスにより署名された書類を発見した部屋で写本集を調べるアジズ・アチャ博士

トリエステ島にいる間に彼は病気になって死亡し、レボロはそのミイラをアイルランドにいたと思っていた甥のミカエル・H・チャンドラーに遺産とした。\*ミイラは明らかにロンドン経由でアイルランドに送られた。チャンドラーの友人はそのミイラをチャンドラーがフィラデルフィアに住んでいたのでアメリカへ向けて転送し、ミイラはついにニューヨーク市の税関倉庫に到着することとなった。

学者たちはこのミイラとその重要な記録が昔の貴族や墓泥棒や、ミイラ探しの不正直な競争者たちの荒れ狂う海の上を無事航行して、ついにニューヨーク港に入港したことを、実に奇蹟以外の何ものでもないと思なしてきた。

は予言者ジョセフに会い、彼の巻物を翻訳する力を持っているかどうかただねた。そこでジョセフは、持っていると答えた。

予言者はその巻物の上のある資料を翻訳してチャンドラーに与えたと記録している。

チャンドラー氏は深い感銘を受け、ジョセフ・スミスの古代エジプト象形文字の解読は、チャンドラー氏が最高の学者から知らされたものと完全に一致していると証明書を書いた。

予言者は教会史誌（第二巻236頁）の中に次のように記録している。

「その後間もなくカートランドのいく人かの聖徒がミイラ

と後に説明する巻物を購入した。そしてW・W・フェルプスとオリヴァー・カウドリを筆記者として、文字や象形文字のいくつかを翻訳し始めた。そして非常にうれしいことに巻物の一つはアブラハムの書を含んでおり、もう一つはエジプトのヨセフの書いたものであることを発見したのである。」

4体のミイラについては予言者は誰のものであるか知らなかったと言われている。後に別な資料によると、予言者が、それらのミイラはパロと王妃と王女と奴隷のものであると証明したと報じている。

そしてパピルスの巻物は女のミイラの一つと共にあったと言われている。巻物については、それは明らかにアブラハムとその曾孫によって書かれた記録の原本か写本であると推測されている。それはその記録を引継いだ記録保管者とパロによって書き加えられ数千年に及んだものである。

その結果は末日聖徒によく知られており、予言者は巻物の上のある文書を翻訳し、この翻訳と複製1, 2, 3が今日のアブラハムの書となっているのである。

「予言者はまた今日私たちが持っているもの以上にアブラハムの書から抜粋することを約束したことも知られているが、殉教により、彼が改訂すると言った資料の出版を打ち切らなければならなかったのである。」

(ジョン・テラー

タイムズ・アンド・シーズンズ1843年2月)

とにかく予言者の殉教後、ミイラと写本はジョセフの母ルシー・マック・スミスに手渡された。1855年5月彼女が死んだ時、ミイラと写本は彼女が死ぬ前に二ケ年共に暮らしていたエマ・スミス・ビダモンによって保管された。エマ・スミス・ビダモンは予言者の未亡人で、その後L・C・ビタモンと結婚した。ミイラと写本を一年余り保管した後エマはそれをA・クムズ氏に売った。アチャ博士によって発見された11体のパピルスに付属していたのは、エマ・スミス・ビタモンが署名して、A・クムズ氏に売ったことを証明する次のような手紙であった。

「私たちは4体のエジプト人のミイラと、その記録を共にA・クムズ氏に売ったことを証明します。このミイラは地下20メートルのエジプトの地下の墓からパリーの考古家協会によって入手されてニューヨークに送られ、モルモンの予言者ジョセフ・スミスによって1835年に240ドルをもって買い取られたものであります。それらは偶然に一体のミイラの胸に記録がおかれていたので、スミス氏によって高く評価されたのであります。スミス氏によってこの記録が翻訳されたところから、これらのミイラはエジプトのパロ王家のものであることがわかりました。それらは専らスミス氏によって彼が死ぬまで保管され、それから何度も購入の申込みがあったにもかかわらず、いつもスミス氏の母がことわって昨年5月14日彼女が死ぬまで続いたのであります。」

5月26日

L・C・ビダモン

イリノイ州ハンコック郡 エマ・ビダモン

ノーブー市

ジョセフ・スミス (エマの子供)

ミイラに関する次のような記事が1856年のセントルイス博物館のカタログに記され、それから1863年のシカゴ博物館のカタログの42頁にも同様に「ジョセフ・スミスが死ぬまで保管していた2体のミイラは相続者が売り払ってしまい、それからしばらくして博物館が購入した。」と記されている。

1871年の大火でシカゴ市はほとんど焼け落ちた。そして、そのミイラと写本はその火に焼けてしまったと推測されていた。1856年と1863年のカタログは、他の二つのミイラまたは写本については何もふれてはいなかったが、二つの他のミイラと予言者が使った残りのパピルス写本についての情報は将来出て来るかも知れない。

最近アチャ博士が発見したコレクションは先ず1918年にニューヨークメトロポリタン博物館において注目をあびた。A・クムズ氏がエマ・スミス・ビダモンから買った全部は処分しなかったのは明らかである。というのは1918年にニューヨーク州ブルクリンのアリス・C・ヒューザー夫人が最近発見されたエマ・スミスの署名つきのパピルスと文書の評価を受けるためメトロポリタン博物館に持つて来たのである。ヒューザー夫人はA・クムズ氏のハウスキーパーの娘であった。そしてパピルスのコレクションは、アリスの夫エドワード・ヒューザーが、1947年に博物館に売却した時から、博物館に安置されて来たのである。

このようにして舞台はアチャ博士の注目すべき発見に移ったのである。ジョセフ・スミスが所有していたものの一部であるこれらのパピルスは今や教会の手に戻った。それらは予言者の簡単明瞭な話、すなわち彼がいくつかのパピルスの原本を所有し、それを高価なる真珠アブラハムの書作成に用いたということの真実性をはっきりと証明するものである。

\*脚註

今日ある学者たちがチャンドラーとレボロの關係に疑問を持つているので真実を見きわめようと探究がなされている。

# 教育の目的



管理監督 ジョン・H・ヴァンデンバーグ

「人間を治める術について熟考したすべての人は国家の運命は若人の教育にかかっていると確信するに至った」

これは古代ギリシャの哲学者アリストートルが当時教育が占めていた重要な位置に注目して言った言葉であります。

私たちはちょっと立止って、教育は成功の鍵であるとアリストートルが結論したように、歴史に影響を及ぼした偉大な人々を顧みる必要があります。私たちは神殿の中で長老たちと共にいた子供の時のキリストを見ても、またエジプト人の知恵を学んだ宮廷内のモーセにしても、あるいはガマリエル

の足下で学んだパウロを見ても教育の重要なことがはっきりとうなずけるのです。

今日教育のある成果が史上かつてないほどに重要視されてきております。私たちはもちろん皆さんの未来の家族の経済的福利に備えるための教育の必要について話しているのです。

教育のこの面について、マッケイ大管長は言っております。「学生は主として経済的、または社会的に有利なることを望んで学校に入るが、この目的は必ずしも達成されな

い。それは教育の最高の目的ではなく、またそうあるべきではない。けれども我々は生活のために教育を受ける価値を低く評価すべきではない。経済的發展のための教育は個人にとっても、また国家にとっても、よい投資である。」(福音の理想 429頁)

この技術の時代において教育は殆んど就職の好機を得る前提条件となりました。昔はただ強い体力を必要とした仕事が今日では機械に代わられております。

多くの高校卒業生が、満足するような仕事にありつくには更に加えて、職業的、専門的訓練が必要であるという厳しい現実に直面しております。このような状況下に大管長会は次のような勧告を出しております。「教会は長い間その会員たち、特に青年たちに大学教育を受けるか、または実業学校で職業を身につけるように奨励してきた。教育、または訓練を必要としないような仕事は年々減少し、間もなく実際に存在しなくなるであろう。そこで我々は、すべての若い人たちが高校卒業後、何らかの正式な教育を受けるように強く提案するものである。」

若いあなたがた、皆さんはこの状態に目覚めて高校卒業後の訓練を受けるように計画して下さい。その利益はただ経済的なだけではありません。なぜなら、それからの訓練がなくてはあなたは世に押し流されてしまって、失業者となるか、せいぜいありきたりの仕事につくぐらいのものです。新聞雑誌連盟の財政事業欄の記者であるシルヴィア・ポーター氏は青年の教育の必要性について述べ、訓練を受けていない人の結果について言っております。

「諸君は、生涯を通じて低い賃金の産業か、労資とも収入の少ない工場で働らくか、あるいは最も単調な仕事につき定期的に失業者の群に入るでしょう。これは説教ではありません。確かな現実なのです。」

なぜ職業的、専門的訓練をさらに求めるのですか。その答えは少くとも経済的にははっきりしております。けれどもマッケイ大管長が言われましたようにこれが「教育の最高の目的」であるはずがありません。それでは教育のより大きな目的は何でしょうか？ 再びマッケイ大管長の言葉を引用しましょう。「人格の形成こそ真の教育の目的である。そして科学、歴史、文学はこの望む目的を達成するために用いる手段にすぎない。」主は同様に教育の目的を予言者ジョセフに啓示されました。

「またわれ汝らに一つの誠命を与う。すなわち汝ら互いに

この王国の教義を教ゆべし。汝ら熱心に教ゆよ。さらばわが恩恵は汝らに伴い、かくして汝らの理解する必要がある理論と原理と、教義と福音の律法と、神の王国に就けるすべての事は更に完全に教えらる。また天にも地にも地の下にも関わりあること、またすでに起りたること、今有ること、近く必ず起らんとすること、また国内に有ること、国外にあること、また戦争、諸国民の葛藤、地上に下る審判、而して国々と王国とに就ける知識などもまた然り。これ、汝らがわが汝らを召したる天職と、わが汝らに委任したる使命とを全力を尽して遂行するために、われ再び汝らを遣わす時に汝らすべての事に用意あらんためなり。」(教義と聖約88：77—80)

このように主の言葉により、末日聖徒の青年にとって、歴史、数学、英語その他を学ぶことには、それ以上に深い意味があるのです。主は主の王国を建てるために、あなたがたの使命と召しを発揚するように、十分に教育を受けられることを望んでおられるのであります。

けれどもあなたは単に知識を得るだけでは主の御意を覚えることができません。そこには更に考慮しなければならないところがあります。マッケイ大管長はこの点を次のような言葉で強調しておられます。

「けれども知識を得ることと、これを活用することとは全く別な問題である。知恵は正に知識の活用であり、神のような高貴な人格を發展させることである。人は歴史や数学の豊かな知識を持つことができるであろう。人は心理学、生物学あるいは天文学の権威者になることもできるであろう。人はまた総合及び自然科学を含めて、発見されたいかなる物でも、すべてを知るかもしれない。けれども、もしも人がこの知識をもって、隣人に正しく対処し、徳と誠実さを施したいと思う気高い精神を持たなかったら、その人は真に教育された人ではない。」(福音の理想 440頁)

このように教育は、もし正しく施されるなら私たちの生活に最もすばらしい喜びを加える要素であります。それを得ることは、予言者リーハイが言っているように、人が肉体をもって経験をつむ目的であります。アロン神権の若い方々、また若い女性の皆さん、あなたがたは十分に教育を受け、知恵を得て下さい。これは経済的な感じがしますが真の教育は霊的な要求であります。

アリストートルの言葉を言いかえると「神の王国の運命は教会の若人たちの真の教育にかかっている」のであります。



扶 助 協 会

# 教会歴史に貢献した女性

ケネス・W・ガドフレー

私 たちの教会は神権が中心になっていますので、多くの良い教師でも末日聖徒の歴史に影響を及ぼしている偉大な女性たちを忘れてはなりません。予言者たちが教会と会員たちに大きな影響を及ぼしていることは疑いもなく真実ですが、地味で慈悲深い母親たちが家庭を通じて豊かな影響を与えていることも事実です。ジョセフ・F・スミスはマリア・フィルディングのような母親がいなかったら使徒になりえなかったでしょうし、ヒーバー・J・グラントは未亡人でありながら家庭にあって献身的に教育してくれた母親がいなかったら、予言者の召しをまっとうしえなかったでしょう。

ジョセフ・スミスの母は息子の最初の示現を誰よりも先に信じた。そのことは十四歳の少年にとって大きな慰めとなったに違いありません。

教会の指導者が選ばれるとよく彼自身の大切な資格としてその指導者の妻がどのような人であるか注目されます。ですから、古今東西を問わず教会の教師は、偉大なモルモンの母親や妻たちが教会及び指導者に与えた豊かな影響力を強調することが大切なのです。

多くの末日聖徒は教会のために、名声や財産や身の安全を放棄してきました。大学を卒業したオルソン・スペンサーの妻は、モルモン教を公言した時に以前の仲の良い友だち仲間から絶交されました。両親は彼女を家から追出し二度と顔を見ないと非常に辛くあた

りました。

その後1846年に一大決心の時が訪れたのです。末日聖徒は立派な家やみのり豊かな畑を捨てて不毛の荒野に新しい家を建てるために、1600キロの旅を開始せねばならなかったのです。スペンサー姉妹は重い病気にかかり幌馬車のベッドに横たわりました。シュガークリークにキャンプしていた雨とみぞれの降り続いた五日の間に、彼女の病気は更に悪化しました。五日目の夜に暴風雨は非常に烈しくなり、小さな水の流れがキャンヴァスの穴を通じてしたり幌の中に吹き込みましたので、やさしい友だちが彼女がぬれないようにミルク沸しを持ってそれを受けとめたほどでした。

翌朝ノーヴーから使いがキャンプのオルソン・スペンサーに手紙を持って来ました。スペンサー長老は妻の両親に彼女の病状を知らせ回復するまで両親の許に留らせてもらいたいと以前に書き送っていました。使いがたずさえて来た手紙はその答えでした。この寒い泥水の荒地で、ひどい病床にあって彼の妻は両親の答えを聞いたのでした。両親は、もし彼女がその信仰を捨てたら、帰って来るのを歓迎しようと言いました。もし彼女がそれを断るなら、家に帰ることはできなくなります。

スペンサー姉妹は手紙を読んでもらいながら一言も言いませんでした。夫が読み終ると彼女は夫に向かって、小さな弱い声で聖書をとってルツ記の1章16節を読んで下さいと頼みました。彼はそれに応

じて読みました。「しかしルツは言った『あなたを捨てあなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。』」

彼が読み終わった時、おだやかな微笑が、美しい妻の顔にひろがりました。彼女のまぶたはかたく閉ざされ、やすらかな眠りにつき息をひきとったのでした。けれども彼女の信仰はスペンサー長老を支え、くり返し語り伝えられ、この話は多くの若い末日聖徒が20世紀の世界にあって重大な決心をする時に役立っているのです。

永年扶助協会々長であったジナ・D・ハンチントン・ヤングはコリント人への第一の手紙13章にあるパウロの教えの完全な模範だと言われて来ました。彼女のほんとうにやさしいしとやかな動作の中にも、英雄のような性格を形造っているしっかりとした強さがあるのです。

ある時彼女は一人の女性が彼女をきらいだと云っていたと聞かされ次のように答えたと言われております。「あら、私はあの方が大好きですわ……。」

もう一人の勇敢なモルモン女性は、ジョセフ・スミスの世話をしたジェーン・ジェームズおばさんであります。予言者の死を聞いて彼女も死にたいと言いはりました。けれども訪問教師は予言者が生き続けるように望んでいると話しました。この確信を持って彼女はソルトレーク市に旅し、教会で尊敬される女性となりました。実際に教会の幹部は彼女のために赤いビロード張りの特別な椅子を作らせすべての大会で目立つ壇の上に置いたのです。ジェーンの予言者に対する愛は無限で、彼女はよく予言者のことを今まで会った中で最上の男性であったと述べていました。

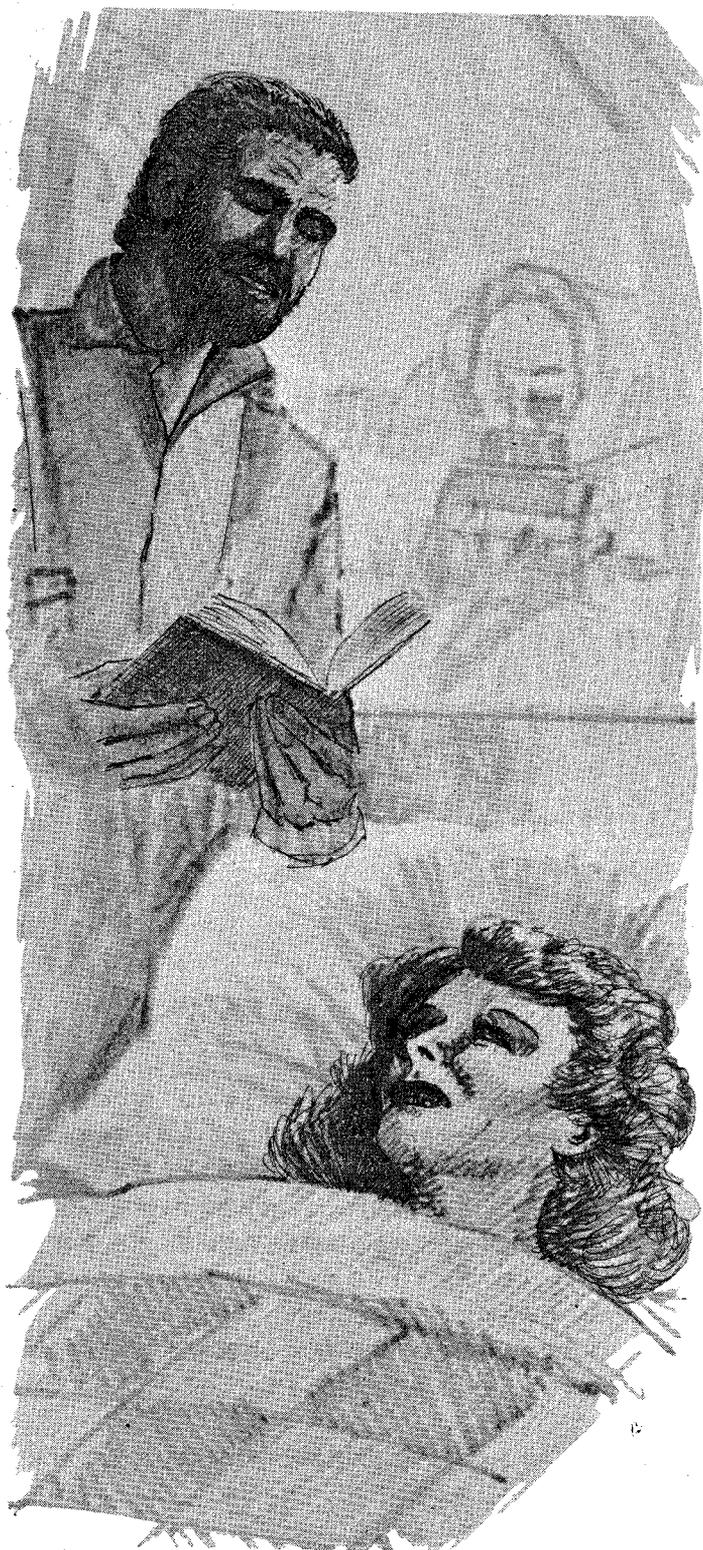
ソルト・レーク盆地において女性はモルモン教徒の生活の中に常に重大な役割を果して来たのです。アンソニー・W・アイヴィンスの娘レア・アイヴィンス・カードンは両親と共にメキシコに住んでいた時実際に起った話をしています。彼女が子供の頃最も感激した話は一人の少女がそのボーイフレンドを裏切ってメキシコ軍の手に渡るよりも、むしろ炭の上に立って足が黒焦げになって、そり上ってしまう方がましだと言って、何一つぶやくこともなく、じっとこらえて立っていたということでした。

レア・カードンはまたおばのマグー・ベントリーがグラディスおばが死んだ後、その幼児と四人の兄や姉たちを暖い心をもって自分の家に迎えたことについて述べています。マグーの家族は6人から11人になったのでした。それから二カ月後に彼女は険しいくぼんだ道を通して岡の頂上まで登りました。そこには彼女自身の幼児が小さな白い棺に横たえられており、彼女の腕にはグラディスおばの赤ん坊が抱かれておりました。

ジョージ・Q・キャノンの妻は、最初に生まれた息子をシオンに埋葬するために、サンフランシスコから運んでいましたがソルト・レークへの途中でまだほんの幼児であった二番目の子供も失ない、二人とも盆地に運びこまれて涙の内に葬られたのです。しかし、キャノン夫人の信仰は確固として動かず、その後更に子供たちに恵まれて立派な家庭をつくり上げたのです。

12歳の時に広野を渡ったエリザベス・I・パルシファーは自分の経験を思い出して次のように云っています。

「私たちはフォート、リーヴェンワースまでミズーリ河を上って行きそこで牛車隊に会いました。私は何日間旅を続けたか、はっきり



「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。」ルツ記 1:16

って行かねばならないのだから。ドーマ、お前さんは私がレベカかそれともお前さんが抱いてくれていたルツかどちらをすて行くか決めることができるように助けて下さい。」

ドーマは黙ったまま長い間立っていた。「ぼく……ぼく……ルツを抱えて行きます。ラケルもそう望むでしょうから。」

その日みんなは、とても遠くまで旅をした。ドーマは時々うしろをふりかえって見た。日がくれる頃彼は地平線のかなたに、土ぼこりを見たドーマには、この人々の足でたった土ぼこりがまだ遠くの空にただよっているように見え、とても不思議に思われた。

間もなく彼らは小高い丘の頂上にたどりついた。彼らの目の前には水がひろがり、夕べのそよ風に静かなさざ波が、沈み行く夕日に赤く光っていた。彼らは水のそばにキャンプをつくった。マーラが夕食の用意をしている間にドーマはキャンプのはずれの方に歩いて行き、うしろをふりむいた。

その時、彼はその土ぼこりの雲がきえて行くところか、だんだんふえて来ているのに気がついた。彼をとりまいている他の人々もまた、ドーマと同じように感じ、同じようなものを見た。

彼のまわりの者は皆つぶやき始めた。「エジプト人だ、彼らは私たちをつれもどしに来たのだ。」

沈んだ気持ちでドーマはそれがほんとうだとわかった。

彼は迷った小羊の悲しそうな泣き声を聞いた。彼がむきをかえてマーラの家族の所へもどろうとした時、小さな人かげがキャンプからとび出して来て小羊の泣く方へ走って行くのが見えた。ドーマの顔は自然にほほえんだ。それは少女のようだった。迷った小羊を危険なところでも追いかけて行

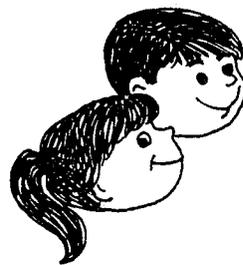
く姿は、ラケルにそっくりだった。あっ！その少女は高い所で足をつまづかせ、ころんでしまった。

それを見たドーマは彼女に向かってまっしぐらに走り出した。土ぼこりは今やものすごい速さでこちらの方に近づいて来た。小高い丘の頂上に来た時、ドーマは小羊を腕に抱えてひざまづいている少女を見た。何とラケルににているんだろうと思った。

その少女は立ちあがって彼の方を向くやいなや、大喜びで「ドーマ！」と叫んだ。「ラケル！」彼は呼びかえした。彼女はずっとこの民と一しょにいたのであった。

ドーマははじめて大声で笑い出した。もう土ぼこりも恐ろしくなくなってしまった。彼はラケルから小羊を取って、共にキャンプに向かって走って行った。

やがてイスラエルのキャンプとエジプトの兵士たちの間に守りの雲柱が立った。夜通し東の方から海をよぎって大風が吹き、朝になった時ドーマとラケルは他の人々と共に開かれた紅海に向って、神エホバがこの民に約束された地に向って走って行ったのであった。



せい  
聖

と  
徒

の

みち  
道



1968年5月号

こどものため

## 金の星

ルシル・シー・リーディング  
さしえ トラヴァ・ウィン

「みなさん詩を書きなさい」先生は言いました。三年生の少女たちはおたがいに顔を見合せほほえんでうれしそうに机に向いました。けれども少年たちは不安そうな目つきでどのように書こうかと迷っていました。特にロベルトは困っているようでした。

先生は、お母さんについていちばん上手に詩を書けた人は、黒板に書いたその人の名前のそばに金の星をつけてあげましようと言いました。

ロベルトは半分目をして、彼の名前のそばに大きな金の星がつけられたらどんなにうれしいだろうかとそぞろしました。けれどもこの夢はすぐにきえてしまいました。というのは、今までにもいちばん上手に書けたことなど一度もなかったからです。

ロベルトはえんぴつのゴム先でえんぴつをはねかえしながら先生からくばられた紙をながめていました。けれどもやがて紙の



上に何かしるしをつくり始めました。彼はかたんに星をかくことができました。彼はもっとたくさんかこうと決心しました。けれどもそれはあまり意味がありませんでした。それはとうてい彼の名前のそばにかかれた大きな金の星には見えませんでした。

デビィが手をあげました。先生が彼女の名を呼んだ時彼女は言いました。「わたしもう書きました。わたしの詩を読んでもいいですか。」「三時になったら、みんなの詩を読みましょう。その時、あなたの詩を一番先に読みましょう」先生はそうやくそくしました。

三時になるとすぐ先生はデビィの名を呼びました。デビィは立上って得意そうに自分の詩を読み始めました。

洋服やくつやなんでも買ってくれる

お母さん

パーティーを開いてくれたり、指わをくださるお母さん

お母さんがたのしい母の日をもてますように

いつもお母さんがいっしょにおりますように。

その次はボビーでした。

ピエロの服やレモネードをつくるお母さん

いたい足にばんそうこうをはってくれるお母さん

でもお母さんにできないこと

そしてできるようになってほしいこと

虫でも好きになってください

お母さんだから

ロベルトをのぞいてすべての子供たちは、自分の書いた詩を読みたがりました。

「ぼくは書けない。詩になっていないんだもの」ロベルトは言いました。

子供たちはおもしろがって顔を見合せて笑いました。「でもぼく思ったことを書いたんです。」そう言ってロベルトは読み始めました。

お母さんは——お母さんは

お前が書けないでいるので

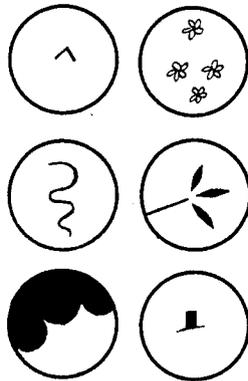
心の中で泣いているぞ

ロベルトは詩が書けなかったので、みんなが笑っているだろうと思って見まわしました。けれどもだれも笑う者はありませんでした。そして三年生のすべての者は、先生がロベルト・ジュー・マルチンズの名前のそばに大きな金の星をつけた時に喜びました。

### えさがし

六つのまるの中にある形は大きいえの中にもあります。

どこにあるかわかりますか。



「どこへ行くんだ、おい小僧」兵士はこわい顔をしながら問いただした。

ドーマは何も言わなかった。彼はうそをつきたくなかった。かといって本当のことを話す気にもなれなかった。

「出て行け、小僧、もうラメセスにはお前らは必要ないんだ、さあととと出て行け。」

ドーマはもうこれ以上どうにもならないことを知って、うしろ向きになった。他の人はみなもう遠くの方へ行ってしまった。

ドーマの前にはふた子をつれた若いおばさんが歩いていて、ドーマは彼女がどうしてこんな遠くまで来られたのだろうかと思議に思った。そう思いながら急いで彼女に近づく「さあ、ぼくが一人だいてあげましょう」と言った。

「どうも……」その女の人は弱々しうな声でささやくように言った。ドーマは1人の赤ちゃんをだきあげて彼女と一緒に歩きつづけて行った。暗くなってきた時、今夜はキャンプをするという声がうしろの方から伝わってきた。

若いおばさんのマールはその場にぐったりと坐り込んでしまった。ドーマもそのそばに腰をおろした。しばらくするとそこへおじさんのジョアジがやってきた。彼は羊かいで、多くのかちくの世話をする人だった。

彼はドーマにあたたかく感謝して言った。

「お前さんはもう家なし子ではないんだ。私たちといっしょにいなさい。」

その夜、彼らは種入れぬパン（ふくらし粉の入っていないパン）をやいて食べ、砂の上によこになってねた。ドーマは寒さを感じ、つかれてもいたのでしばらくの間ねむれなかった。ふと遠くの方を見ると背の高い人が人々の間を動いて行くのが見え

た。やがてその人は立ち止って手をくみ合せ、しばらくの間空をおおぎ見ていた。それはモーゼだった。ドーマはそれを知ってあたたかいけいけんな気持ちにみたまされた。

けれどもラケルのことを思い出すと、そのあたたかい気持はきえ去ってしまった。

次の日も朝早くからまた南方へ向っての長い旅が始まった。

赤ちゃんのルツをだいてとほとほと歩きながら、ドーマは小さなことでも人を助けることができるということに感謝した。

人々がつかれきってしまった時、やっと長い一日が過ぎた。みんなはよく休みもした。

彼らはうしろをふりかえって道路上においかけてくる印が見えないだろうかと、じっと見つめてさがし求めた。

翌朝、ドーマは早く起きた。彼は立ちあがり、ねじつまっているキャンプをながめながら、いったい、どの位の人がこの中にいるのだろうか。教千か、数万か、と思ひめぐらした。けれどもその中に妹のラケルがいないので、彼は深い悲しみにとざされた。

「ドーマ。」

ドーマはふりむいてマールの顔を見た。マールはドーマがなやんでいるのを知っていた。

「ぼくは行けないんです、ぼくは妹のためにもどらなければならぬんです。」

「もうすっかり遠くへ来てしまったんですよ。もしお前さんが妹を見つけてつれ出したとしても決して私たちに追いつかせんよ。」

「ぼくはためして見なければならぬんですよ。」彼は言った。

「ドーマ、もしもお前さんが私たちをおいて行くなら私はこの二人の赤ちゃんをつれて行くことはできない。私の夫は羊を追

て答えた。「ぼくはイスラエル人です。ケダルの息子ドーマです。でも今は家なし子なのです。」

「火をけて私についてきなさい。今夜はイスラエル人は誰も外に出てはいけななんだ」

ドーマは砂をすくって火にかけながら救われた気持でほっとした。そして土手をよじりのぼり始めた。

「まだどこかに家なし子がいるかね。お前さん知っているか？」

「いいえ」ドーマは答えた。

「みんな家が見つかるといいんだがね。さあ急ごう」そう言いながらその男の人はドーマをつれて歩き始めた。

間もなく二人は小さな家の前に来た。

「開けなさい。ジェットルだよ」男の人がそう呼びかけると、やがて門が開き中からイスラエルの女の人が出て来て「早くお入り下さい」と言った。

ドーマは門を通りぬける時、その戸の両側と上の方に変わった赤い印がしてあるのを見た。ドーマにはそれがとても奇妙に思えた。家の中に入ると彼と同じ年頃の子供たちがたくさんいた。その中には彼の知り合いであるミシマもいた。ドーマは彼を見つけると何となくほっとした気持になった。彼は与えられた食物をががつ食べた。食事がおわるとミシマに向かって「戸のところにしてある赤い印は何？」と尋ねた。ミシマはドーマの肩に手をかけながら

「あれはいけにえの子羊の血だよ、そしてここがイスラエル人の家であることの印なんだ。ああしておけばこの中にいる人たちは安全なのさ」と答えた。

「どうして安全なの？」ドーマが尋ねると、ミシマは頭をふって「ぼく知らないよドーマ、けれどもみなぼくたちがもうエジプトの地を出発するんだと言っているん

だ、何だか今夜が一番あぶないんだそう。今夜が無事であればぼくたちイスラエル人は二度とどれいにならないんだよ」

「それはいいね」ドーマはそう答えた。けれどもその表情はとても悲しそうだった。ラケルにはもう二度と会えないと思っていたからである。彼はかべによりかかった。とてもねむかったのだろう。しかしそれはほんのつかの間だった。すぐミシマにゆりおこされた。

「どうしたの？」ドーマはねむそうに答えた。

「さあ出発だよ、エジプト人はとてもおこって出て行けと言っているんだよ。」

たちまちドーマは目をさましてとび上った。

「さあ子供たち、みんな外に出て大人について行くんだ」ジェットルは言った。

ドーマはいそいで外に出た。彼はイスラエルの民が自分たちの群をおいたてながら南の方へといそいで行くのを見た。人々のうれしそうな声を聞いて、ドーマは胸をわくわくさせていた。けれども心から喜ぶことはできなかった。ラケルがこのかいほうされて行くイスラエル人の旅に参加していないのどうして喜べるでしょうか。

どんどんと人々が加わってくるにつれて、砂ぼこりがまきあがってきた。ドーマはしばらくの間、みんなが通りすぎて行くのをじっと立って見ていた。彼はラケルのいる家を知っていた。ドーマはそこへ行って、こっそりとラケルを呼び出し共に逃げ出そうとしていた。けれどもそれはイスラエル人たちの行く方向と反対の方へ行かねばならなかったのです。とてもむずかしいことがわかった。ドーマは人々の群が小さくなるまで待っていそいでかけ出した。

すると一台のエジプト人の馬車がドーマのちょうど前に立ちふさがった。

## ペギーの二つのおくり物

ロイス・アン・ウィリアムス

ペギーが目をさました時には朝日がまぶしくかがやいていました。ペギーはベッドからとびおきて早くふくを着ようとしてしました。今日はペギーにとってとくべつの朝でした。ペギーはお父さんといっしょに、お母さんのたんじょう日のおくり物をかいに、まちに行くことになっていました。ペギーは何かよいものをかおうと土曜日のくるのを待っていました。その日がとうとうやってきてまもなく出かけようとしているのです。

ペギーはこっそりと台所に入ってお母さんのうしろにしのびよりました。そして両うでをひろげてお母さんのこしにだきつきました。

「あら、びっくりしたわ。」お母さんはふりかえってにこにこことほほえみ「さあ、おかけなさい、朝ごはんのよういができましたよ」といいました。

「お父さんは町へ行くよういができたかしら。」ペギーにたずねました。

「ええ、お父さんはあなたの朝ごはんのすむまで庭ではたらいでいらっしやるのよ。あなたたち二人は今朝何かとくべつなお仕事があるの？ 何だかないしょごとがあるようね。」お母さんがいいました。

ペギーはほほえみました。「そうよ、ほんとにとくべつなことよ、そして、ひみつ

なの。」

「あらそう、もうきかないわ。」そういいながらお母さんはわらいました。

ペギーが食べている間、お母さんはいそがしくお皿をあらっていました。食べ終わった時、お母さんはペギーにいいました。「お皿をみなあらったから、私がおへやをそうじする間にふいてちょうだい。」

「でもお父さんが待っていらっしやるんですもの、今お皿ふきしたくないわ。」

ペギーはつぶやきました。

「あら、喜んでお手伝いしてくれると思っただのに、そんなに長いことかからないわ、それにお父さんは待つことを何も気にしておられないわ、お父さんには、あなたがやういできるまで、外にたくさんのお仕事があるのよ。」

「あら、じゃ、いいわ。」ペギーは口をとがらしてお皿をふきはじめました。ペギーはお母さんが急いでしんしつに行つて、そうじきをかけながら歌いはじめるのを聞きました。お母さんがそんなに楽しそうに働らいているのに、少しばかりのお皿をふくの

にふくれた自分をはずかしく思いました。「もうこれからお皿のことでぶつぶついわないようにしましょう。」とペギーは思いました。

間もなくお父さんはペギーを自動車にのせて、まちに出かけました。ペギーはお父さんにいいました。「わたし、あまりお金がないんだけどお母さんに何かいいものを買ってあげたいの。二百円と少し持っているんだけどこれだけで何かよいものがかえるかしら？」

お父さんはちょっと考えました。「そうだね、いろいろなものがあるよ、もしお金がたりないならお父さんは喜んで助けてあげるよ。」

「お父さんが手つだえるのはわかっている

わ。でもわたしは自分で買ってあげたいの。それにみなはらってもらおうと、わたしのおくりものらしくなるでしょう。」ペギーはこたえました。

「それはほんとうだね、まあお店にどんなものがあるか見てみようよ。」

ペギーが店の中を見はじめると、よい物がたくさんありましたが、ほとんどの物がペギーの持っているお金よりも高いねだんでした。ペギーはお母さんに買ってやりたいようなものは何も見つからないのではないかと思いはじめた時、とっせんお母さんがほしがっていた物に目がとまりました。ほんの二、三日前ペギーはお母さんがふきんをほしがっていたのを聞いていたのです。

「ほーら、お父さん、このきれいなふきんを見て！ お母さんがちょうどほしがっていたのよ。」

「それはいい考えだ。それなら三つ買ってでもまだその上につけるカードもかえるね。」

ペギーの頭にある考えがうかびました。「わたしはふきんをかうわ。だけどカードはいらないわ。たしはお母さんのためにとくべつなカードをつくってあげるんだもの。わたしがお母さんにあげようとしていたおくりものはこれだけではないのよ。」

お父さんはふしぎそうな顔をして「それはどういうことなの？」

ペギーはお父さんにうちあげました。お父さんはそれはすばらしい考えだと思いました。

よく朝ペギーは一つのつつみを持って朝ごはんに来ました。ペギーはお手をひろげてお母さんに「おたんじょうびおめでとう」といってだきつき「これお母さんによ」とおくりものをわたしました。

お母さんがつつみをあけると三枚のきれ

いなふきんが出てきました「まあ、これちょうどほしかったのよ」お母さんはカードを取上げてペギーのメッセージを読みながら

「まあ、これもちょうどお母さんがほしかったものよ」といいました。

お母さんが読んだカードの上にかこう書いてありました。

お母さんたんじょうびおめでとう

わたしはよろこんでお皿ふきをするおやくそくをします

ペギーより



### おしらせ

このこどものページは本からぬきとって2つにおり、べつな本にすることができま

す。3月号から1年間とうしてページがつけられていますので、毎月はずしてまとめ、12月に1さつの本にしましょう。

## イスラエルの少年ドーマ

リーランド・G・グリッフィン

(エジプトからイスラエル人が脱出した時のある少年についての物語)

ドーマは小川のそばに小さなたき火をして、夜の寒さに耐えながらぼろぼろの服を身にひきよせてうずくまっていた。

あたりは高い葦のしげみにかこまれて静まりかえり、ただ蛙の泣き声が聞えてくるだけだった。

少年はたき火のそばでしかめつらをしていた。その身に危険を感じ、ひとりぼっちのさびしさにたえられないようだった。彼はイスラエルの民がエジプトの地からにげだす日が近づいてきたことを知っていた。それは喜ぶべきことではあったが、ドーマには問題がたくさんありすぎて喜べなかった。彼の妹、ラケルは一週間前に下女として養われるためにエジプト人の家庭に連れて行かれてしまい、ドーマは今、みなし子になってしまった。彼はもう二度と彼女には会えないと思っていた。

太陽は低く沈み、夕やみがせまってきた。すると川下の方から木ぎれをふむ音が聞えてきた。誰だろう？ イスラエル人だろうか。エジプト人だろうか。彼は火のそばにうずくまって身をかくそうとしていた。けれどもすぐ、一人の男がドーマの前に立ちふさがった。

「何だ。こんな所に、お前はイスラエル人かね？」「そうです」彼はほこりをもっ





## MIAにおける成長の10年

少年少女たちは、誰であろうとまたどこに住んでいようと、12歳になると大人の仲間入りをし始める。それで彼らはこの年齢からMIAにも入って来るのである。

そこで少年少女たちは、教師や指導者の指導を受け、日常生活にあって、次第に個人の証詞を強め、才能を伸ばすのである。MIAはその若い仲間の一人一人に、この訓練をするように特に注意を払っているのである。これこそ、福音の偉大な祝福の一つである。

リブランド・リチャーズ長老はかつて次のように述べた。「多くのものが、自分自身の両親によって、末日聖徒イエスキリスト教会に加入したというだけの理由で、自分の家から追い出されている。サタンが自分の目的を達成するために、また主のみわざを破壊するために、どのように人々の心の中に働きかけているかということを理解せずには、このような迫害の原因を知ることはできない。両親というものは絞首台までさえ子供たちの後を追いかけるにもかかわらず、子供たちが真理を受け入れようとするときには、彼らに背を向けるのである。」(奇しきみわざ 356頁)

同じ書(350頁)の中で、リチャーズ長老はJ・オーバル・エルスワース哲学博士の「他の人々はモルモンをどう思っているか」と題した記事を引用している。

「私が見てきたかぎりでは、モルモンの一人一人の行いの程度というものが、この国の他のどの地方の人々よりもまさ

っているといえる。私はただただ、讚嘆の念を持って、自分たちの子女を、尊敬すべき勤勉な大人に育てあげているモルモンの努力について話すことができるだけである。」

MIAの目的は、両親がその子供たちを勤勉な、尊敬すべき大人になるように教える手助けをすることである。この目的達成のために、MIAの少女たちは、ビーハイヴ(12歳と13歳)、マーメイド(14歳と15歳)、ローレル(16歳と17歳)のクラスで各2年間とグリーンークラス(18歳以上)の3年間あるいはそれ以上を修了して、成長の10年間を過ごすのである。

少年たちはMIAの4つのコースで10年以上を過ごす。すなわちボーイスカウト(12歳と13歳)、エクスプローリング(14歳と15歳)、エンサイン(16歳と17歳)、Mメン(18歳以上)のコースである。MIAのクラス(ミューチャルスタディ)は若い結婚した夫妻にも、また特別な興味を持って引続き学ぼうとする年長の会員たちにも及んでいる。

MIAの機会は、教会員であろうとなかろうと、すべての元気な若人たちに開放されており、会員ばかりでなく非教会員もクラス活動に参加し、すべての年齢層の業績達成と授賞計画に参加できるのである。たいていの場合、達成計画の要求事項は同じであるが、ある事項が非教会員の信条を犯すものと、MIA役員が感ずるところでは、その人のためになる別の要求事項がとって代ることもある。

MIAのクラス活動と交わりは、第一に一人一人の精神的、霊的成長のためのものである。これからの記事はMIAの活動面と各人の才能を伸ばすための機会について特に述べる。

### 少女のために

MIAにおけるすべての年齢層に個人の業績達成と授賞計画があり、その中で少女は年間を通じて要求事項を充たしてオーナービー、マージョイ、ローレット、又はゴールドングリーナーの栄冠を得ることができる。これらの要求事項のほんの少しを読んだだけでも少女の霊的及び肉体的成長を知ることができる。すべての要求事項については、MIAの各年齢層の教師から知らされる。

ビーハイヴガールズはセル(蜂の巣の穴)を充たすことによって、ワーカービーとオーナービーを授賞できる。セルの数は9つの範囲に分けられる。

(1)個人の祈りを忘れない信仰を持つこと。(2)MIAの読書課

程(1967~1968年)であるこの雑誌(聖徒の道)を読み、知識を求める。(3)クリスマスの贈物をつくり、それをあげることによって人を喜ばす。(4)教義と聖約89章(知恵の言葉)を理解することによって健康を守る。(5)女性らしく、つつましい服装とふるまいによって女性たることを尊重する。(6)30分早起きして、一つの才能をみがき、価値のある働きをする。(7)小さな子供たちの世話をし、楽しませるなど、特に何かをしてあげることにより奉仕の喜びを味わう。(8)真理を愛すること。(9)建設的な批評を感謝して受けることを学び、喜びを感じる。

マジョイを受けたいと思うマーメイドは、五つの推薦された聖句を暗記する。また最初の年に「真理の宝」の第二章までを勉強し、後の章を2年目に行く。選ばれた読書のリストから一冊の書物を読むかあるいは本誌(聖徒の道)の若人のページを6冊読む。自分の部屋の世話をする個人的計画をたてる。(寝床をつくる、衣類を整理する、部屋をきちんと清潔にする、自分のもののアイロンをかけるなど)ばらの象徴を暗記して、実生活に応用する。

ローレットの授賞をしようとするローレルの少女は各4半期に実行する二つの真珠を選んでそれらを実行すること。それらは(1)すべての割当てと責任を喜んで受ける美の真珠。(2)時の出来事と聖句を読む知恵の真珠。(3)毎日誰かによいことをする愛の真珠。

ここに挙げたものは各分野の各々12の中から選び出したほんの一例にすぎない。

MメンとグリーンナーがマスターMメンになり、あるいはゴードングリーンナーになるには、立派な生活をし誠命を守るなどに加えて、次のような規定の諸活動を達成しなければならない。(1)一年間教会の何らかの組織の教師として霊的に生活する。(2)ワード部(支部)やステーク部(地方部)の一つのレクリエーション活動の実行会長となる。(3)正式の討論会でクラスを代表して教える。(4)ドレス、スーツ、コートのうちどれか一つを含む衣類3点を創造的に作る。これらもまた授賞候補者がなしとげなければならない40以上の活動の中のほんの数例に過ぎないのである。

青少年のために

すべての少年は教師の指示と親の励ましを受けて、MIAプログラム内のボーイスカウト、エクスプローラー、エンサイン又は、Mメンの毎月、毎週の行事に参加することにより

神権者としての男らしさを発揚し成長することができる。

ボーイスカウトは進級すると、二級スカウト、スタースカウト、イーグルスカウトになることができる。

ボーイスカウトは万国のボーイスカウトによって定められた要求事項に従うのである。これらの要求事項は、地方の教会の権威者あるいは社会の指導者が持っている手引きで、学ぶことができ、少年に自ら社会的、霊的、道徳的、知的成長をもたらす機会を与える。

「神への務め」の賞は自分自身に、家族に、また天父に、4年間の奉仕を完了した若人に授与される。その人はこの要求事項をみたすために12歳から始められ19歳で完了しなければならない。「神への務め」の賞は資格のある末日聖徒の若人に、スカウト誓約の最初の義務「名誉にかけて、私は神の務めに最善を尽します」を守って「神への務め」をなした証拠として与えられるのである。授賞計画の要求事項は青少年のためにアロン神権、日曜学校及びYMMIAプログラムの標準と理想に焦点を合わせている。その他に、少年はアロン神権業績証明書を受けなければならない。それには日曜学校に少くとも75%出席し、毎週のYMMIAに少くとも75%出席し、アメリカ合衆国のボーイスカウトあるいは、エクスプローラーに正式に登録されているか、合衆国以外の場合は彼が住んでいる国の適当するMIA年齢、グループに登録されていることが必要である。

MIAの指導者たちは主の靈感の下に神権者によって召され、たえざる霊的導きを求める。MIAの指導者はレッスンと業績達成の各コースのあらましを研究し、福音の固い証詞のもとに模範をもって導くのである。毎週MIA指導者の配慮の下にある時、若い人たちは、外界の悪い影響から守られているのである。若人は多くを学び完成し、人類のために貢献しなければならないものを持っている人々である。若人はその心と肉体を清く保ち、未来の指導者となるのである。

MIAは、若人が教会や社会や国家において、特に自らの家庭において、その子孫の教育と保護のために、指導者として召されるに適わしい者となるように助けを与える責任を受けている。今やほとんど全世界にMIAがあり、そこで50万の若人がたえざる指示と靈感を受けつつ、喜びをもってそれに従っているのである。

もしも今日まだMIAが存在していない所があるなら組織することができる。詳しくはMIA本部まで。



この世の中で愛の精神を分かちあい犠牲しあうほど家庭を  
親密に結合するものはなく、霊的経験ほどその愛をはぐ  
くむものはない。その霊的経験となったのは……………

# わが家の出来事

ロザリンド・フェンズワース

私は若い頃のことを懐しく思い出しております。物質的にはさほど恵まれませんでしたが、愛と霊的な祝福に満ちた素晴らしい家庭に育ちました。最もよく思い出されることは家庭と共に教会活動に参加したことです。両親は必ず私たちを連れて、家族そろって教会へ行きました。私は、父や母が教会にいなかった日曜日など思い出すことができま

せん。私たちは家庭の夕べと家族の祈りをし、毎日夕食前に、標準聖典の中から一章ずつ読みました。これらを通じて私たち家族は親密になり、聖句をよりよく理解するようになりました。貧しい大家族でしたので多くのものを分かちあわねばなりませんでした。時には、何もなかったこともありましたが、このことはかえって、私たちがお互いに感謝しあう愛

を深めたのです。

教会活動のお蔭で私は生涯でとても貴重な経験をしました。それは伝道する宣教師を支える経済的責任を分担するということでした。私はこの話を家族への捧げ物として、また私たちの霊的経験により得た喜びを、皆さんにお伝えしたいと思い話し致します。

私は9人の子供の長男である兄に特に親密感を持っていましたので、その兄が南部極東伝道部へ伝道のために出発した時、とても耐えられない思いでした。

兄は弟や妹にすばらしい模範を示してくれました。私の知っている中で兄は最もすばらしい人であるといつも思っており、私たちは兄が大好きでした。

高校を卒業してから、私は大学へ行けるだけのお金を貯めるためにある町へ働きに行きました。私は兄のことを思い続け心から愛しておりました。やがて私は愛を示す実際的な方法があることに気がつき、兄の伝道期間中に経済的援助をすることができたのです。私はその秋に大学へ入るつもりでしたが、実際にどうすべきかよく考え、祈りました。

私がこの決心をしようとしていたある日曜日のこと、ステーキ部大会に出席して、S. ディルワース・ヤング長老（現七十人最高評議員会々員）のお話をうかがいました。ヤング長老は「両親や兄弟、姉妹が必要な時に、助けを与えるのは我々の義務である」と語りました。私はこの話により確かな回答を得たように感じ、父に自分の望んでいることを告げたのです。父は私に重荷を負わせたがらず、それは自分たちができるし、また父の責任であるとはっきり言って、私に学業を続けるように望みました。私は、主が私に助けるように望んでおられる気がするし、ぜひそうしたいと説明して、ついに父も同意し、兄の一年間の伝道費用をささえる一人となったのです。主は私を豊かに祝福され、兄の経済的支援ができた上に、翌年大学に入るための多額のお金を貯えることができました。

この経験に次いで子供たちはそれぞれ他の者が伝道に出た時に大きな助けをしたのです。兄が帰って来て、今度は私が伝道に出る年齢になった時、私の伝道費用をどのようにまかなうかを決める家族会議が開かれました。おじさんとおばさ

んの寄付を含めて、兄と妹が私を助けてくれることになり、汗水流して働いて得たお金が、伝道中の私に送られてきた時、家族に対する私の愛と感謝の念はますます強くなっていきました。兄は大学に通いながら私を助け、妹は働きながら同時にステーキ部宣教師をも勤めていたのです。次の弟と妹はあいついで伝道に出かけ、二人は二カ月をおいて出発しました。

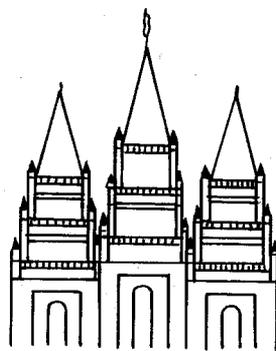
妹の送別会の後に、我が家の状態を良く知っているある会員が父にたずねました。「ファンズワース兄弟、あなたはどのようにして二人のお子さんを同時に伝道に出せるのですか。」父は答えました「我が家には57頭の子牛がいます。この57頭全部とその他私たちの持っているすべてを犠牲にしてもそれをなしとげます。」

私の母が同様の質問を受けた時に、こう言いました。「私たちは一日、一週、一カ月を大切に過していきます。そして信仰をもって一生懸命働いてそれをやりとげるのです。」両親の偉大な信仰と進んで主に仕えようとする気持に何度か心暖められたことでしょう。これは私たち子供にとって、とても貴重な訓練となりました。

最近私在家に帰った時、10歳の弟が走って来て新しい腕時計を見せました。

それは特に驚くほどのことではないのですが、その弟にとっては、世界を我が物にでもしたかのように感じていたのです。後に弟がどこでそのお金を得たか、私は母にたずねました。そして弟は田舎の兄の牧場で、牧草束ねを手伝って、その時計を買いましたが、働いたほとんどのお金を宣教師たちに送ったことを知らされました。私はこの小さな弟が、戸外の友のもとへ、うれしそうにかけ出して行く姿を、涙をうるませながら見送りました。私はその時、物質的に恵まれることだけが、喜びをもたらすものではないことを知りました。私はよく私の兄弟姉妹のような子供を育て、父や母のような模範的な親になりたいと祈ったものでした。現在私の家族は三人の子供を宣教師として伝道に出しております。この世の中で家庭内の愛ほど家族を親密にさせるものはなく、霊的経験を共にすることほどその愛をはぐくむものはありません。

# 家族のきずな



系 図

昨年私たちは教会の会員たちに神殿の仕事における神聖な責任について指摘してきました。私たちはすべての末日聖徒の心にモロナイにより予言者ジョセフ・スミスに宣言された教義「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせ、のろいをもってこの国を撃つのではないようにする」ことの必要をうたえようとしてきました。

今月から私たちは神権指導者、クラスの教師、すべての教会員に、私たちの家庭、都市、国々、及びソルト・レーク市の系図協会で得られる系図資料の用い方をお伝えする予定です。

教会員にとって、系図探求の目的は、私たちの先祖が誰であるか、その相互関係、各自の家族などを知って先祖が天父の日の光栄の王国に昇栄できるように、先祖の身分を十分に証明し、主の神殿内で代理の儀式を執行することです。系図の記録を手に入れることは、探求の最終目的ではなく、聖なる目的達成の手だてとなるものであります。

すなわち、記入された一枚の系図そのものは、主が神聖に記録された死者の記録と言われている記録ではなくて、神殿の中で執行された儀式の記録が死者の真の記録となるのであります。そこで私たちは作成する記録をできるだけ正確にして神殿の儀式を正しい価値あるものとするのがいかに大切であるかを知ることができるのです。もしも儀式が正しくないなら主はその儀式に承認の印をおされるはずはありません。

この準備の作業、いわゆる「系図探求」の助けとなるものとして「ペディグリーチャート」（系図表）と呼ばれる大切なシートがあります。このシートは私たちがどの先祖から来たかその経路を示す道路地図のようなものであります。誰でもまだ行ったことのない所へ自動車旅行をしようとする時は道路地図を手に入れて、その目的地へ達する途中で通過する町や、まがり角などを知ろうとするでしょう。そうすることによって、よい道を通りより早く旅行する方法を知ることができます。系図表も同様であり、それは、私たちの先祖が誰

であるか、いつ、どこで生まれ死んだのかを示して、私たちを先祖のもとに導く道路地図の役割をはたしてくれるでしょう。系図探求の目的の一つは私たちの系図をできるだけ遡ることです。これは通常三つの方法でなされます。

まず私たちは系図表を、自分個人の知識にもとづいて書き始めます。表の上に、自身と両親と祖父母などについて、自分自身の家庭の周辺で得られるあらゆる情報を記録します。

二番目にもっと遡れるように助けてもらえないか、親戚に相談します。すべてこれらのことをなしてから三番目の段階として系図の探求を始めるのであります。私たちは、先祖が生まれた所、任んだ所、結婚した所、死んだ所の記録を得られる所に手紙を書くか、または訪問し、この情報を得て、表に記入してできるだけ系図を遡ります。系図は家族を示さず、ただ直系先祖を示してくれるだけであることを覚えるべきです。これには直系先祖の家族についての詳細な記録はなく、また他の人に対する関係もありません。

各教会員の責任は自分自身の系図を探求して家族が完全なくさりとつながるように連結することです。この家族のくさがり系図表に記録された先祖たちの永遠な単位として共に結び固められるのであります。

系図作業について心しておかねばならないことが若干あります。男は彼の血統上の系図作業に責任があり、女は彼女の血統上の系図作業に責任があります。女性は結婚したからといってその責任から解放されるものではありません。彼女には夫の血統を探求しなければならないという義務はありません。また夫はその妻の血統に関して働らく責任はありません。結婚はこの神聖な特権を変更するものではありません。

系図探求の作業を続けて行く間に、あなたはたくさん価値ある情報を提供する文書を発見するでしょう。

また出生証明書、結婚証明書、死亡証明書、洗礼命名または祝福証明書、その他さらに多くのものを手に入れることができるでしょう。これらの重要な記録は大切に保存して下さい。これらのものはあなたの直系先祖の身分を明確に証明す

る証拠となるからであります。

多くの家庭で家族のスクラップブックが作成されています。これは系図記録ではなく、家族史のスクラップブックであります。それは単に子孫のために保存するという目的だけでなく、全家族がなしたことを知るための記録なのであります。

各家庭はこの記録の中に通知表、写真、証明書、日曜学校賞状、遺言状、証書類、新聞切抜き、軍人記録、その他種々の身分証明及び業績証明などの記録を保存してきました。

来月私たちは、死んだ肉親の儀式のための家族の記録を作

成する際に、系図表をどのように用いたらよいかについて話します。

私たちはあらゆる所にいるすべての聖徒たちに、直ちに先祖のために系図表を準備し、神殿の儀式が正確に有効に執行されるように、系図表を正しく記録し、完成するようにおすすめします。

私たちは系図の正しい記入法をご紹介しました。この時満ちたる神権時代に、神が私たちになすように与えられた特権であるこの仕事は決してむづかしいものではないと心に留めて下さい。

**PEDIGREE CHART**

CHART NO. 1

DATE 22 Jan. 1967.

NAME OF PERSON SUBMITTING CHART SAKURAI, Masahiko 佐倉正彦

STREET ADDRESS Takaharacho Takahara-shi 広島県竹原市竹原町

CITY Hiroshima-ken STATE Japan

NO. 1 ON THIS CHART IS THE SAME PERSON AS NO. 1 ON CHART NO. 1

佐倉 勝  
SAKURAI, Masaru

BORN 13 Aug. 1904 明治37年8月13日  
WHERE Takahara-cho Takahara-shi Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED 2 Oct. 1926 昭和1年10月2日  
DIED 26 Jan. 1965 昭和40年1月26日  
WHERE Takahara-cho Takahara-shi Hiroshima-ken

佐倉 正彦  
SAKURAI, Masahiko

BORN 3 Mar. 1937 昭和12年3月3日  
WHERE Fujimi-cho Hiroshima-shi Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED 4 Apr. 1965 昭和40年4月4日  
DIED  
WHERE KANAZAWA, Sachie 金沢 祥恵

佐保 文枝  
SADAYASU, Fumie

BORN 22 Aug. 1908 明治41年8月22日  
WHERE Itozaki-cho Mihara-shi Hiroshima-ken  
DIED  
WHERE

佐保 元吉  
SADAYASU, Motokichi

BORN 25 Aug. 1891 明治24年8月25日  
WHERE Itozaki-cho Mihara-shi Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED 22 Aug. 1908 明治41年8月22日  
DIED 3 Sept. 1932 昭和7年9月3日  
WHERE Showa-cho Hiroshima-shi Hiroshima-ken

池田 ツルノ  
IKEDA, Tsurunno

BORN 2 Apr. 1891 明治24年4月2日  
WHERE Hon-cho Mihara-shi Hiroshima-ken  
DIED 30 Aug. 1945 昭和20年8月30日  
WHERE Itozaki-cho Mihara-shi Hiroshima-ken

佐倉 大志  
SAKURAI, Takichi

BORN 7 Oct. 1874 明治7年10月7日  
WHERE Takahara-cho Takahara-shi Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED 26 Mar. 1911 明治44年3月26日  
DIED 23 Aug. 1926 大正15年8月23日  
WHERE Takahara-cho Takahara-shi Hiroshima-ken

佐保 工一  
SADAYASU, Ei

BORN 2 Feb. 1872 明治5年2月2日  
WHERE Itozaki-cho Mihara-shi Hiroshima-ken  
DIED 18 May 1932 昭和7年5月18日  
WHERE Takahara-cho Takahara-shi Hiroshima-ken

佐倉 儀八  
SAKURAI, Gihei

BORN 15 Mar. 1844 弘化2年3月15日  
WHERE Takahara-machi Takahara-shi Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED 20 Mar. 1872 明治5年3月20日  
DIED 20 Aug. 1904 明治39年8月20日

佐保 中平  
SADAYASU, Nakaeji

BORN 15 Oct. 1848 嘉永1年10月15日  
WHERE Higashino-mura Mitsuugi-gun Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED

佐保 元吉  
SADAYASU, Rinkichi

BORN 17 Dec. 1879 明治12年12月17日  
WHERE Itozaki-cho Mihara-shi Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED Reg. 3 Feb. 1891 明治24年2月3日  
DIED 2 Oct. 1923 大正12年10月2日

池田 萬次郎  
IKEDA, Manjiro

BORN 2 July 1869 明治2年7月2日  
WHERE Nagatani-mura Toyota-gun Hiroshima-ken  
WHEN MARRIED 11 June 1896 明治29年6月11日  
DIED 20 May 1950 昭和25年5月20日

佐保 昌平  
SADAYASU, Tenikci

BORN 10 Sept. 1861 文久元年9月10日  
WHERE Higashino-mura Mitsuugi-gun Hiroshima-ken  
DIED

池田 瑞平 松岡 四郎  
IKEDA or FUKUMOTO, Masusakuro

BORN 7 June 1876 明治9年6月7日  
WHERE Nagatani-mura Toyota-gun Hiroshima-ken  
DIED 2 Apr. 1947 昭和22年4月2日  
WHERE Mihara-shi Hiroshima-ken

橋田 マス  
HASHIDA, Masu

吉田 小平  
YOSHIDA, Kehei

吉田 コウ  
YOSHIDA, Kou

後藤 トミ子  
GOTO, Tomiko

山 中 フチ  
YAMANAKA, Fuji

山 中 直七  
YAMANAKA or MURAKAMI, Naoshichi

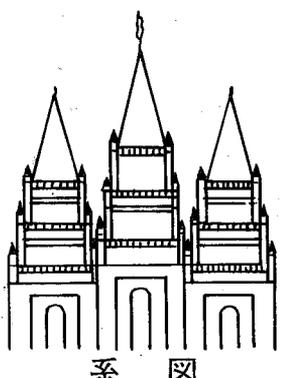
山 中 フチ  
YAMANAKA, Fuji

地 田 コツヨ  
IKEDA, Kotayo

沢 田 研吉  
SAWADA, Yakichi

村 上 リハ  
MURAKAMI, Rie

PRINTED IN U.S.A. 190M 3-25-64 G.N.  
COPYRIGHTED, 1934, GENEALOGICAL SOCIETY OF UTAH  
DISTRIBUTED BY DESERET BOOK COMPANY, SALT LAKE CITY, UTAH

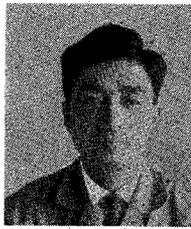


系 図

## 伝道部長会メッセージ

第二副伝道部長

田中健治



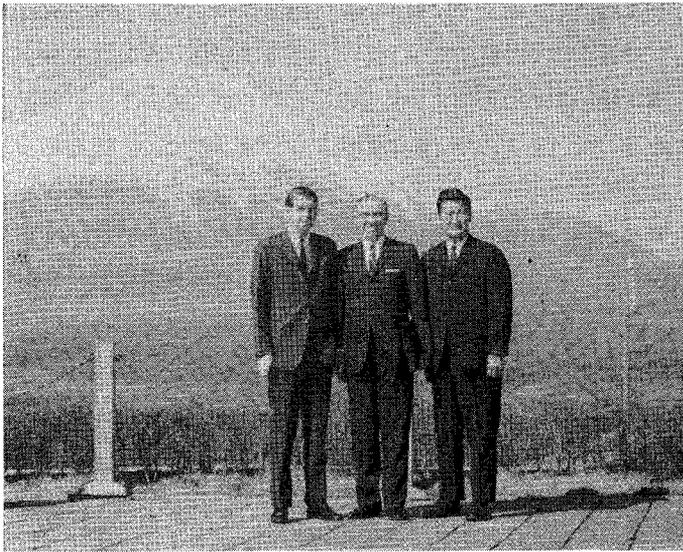
私達教会員にとりまして5月には2つの記念すべき日があります。1つは第2日曜日の母の日であり1つは1829年5月15日のアロン神権回復を記念する第3日曜日です。私達にとってこの日を意味あるものにする方法はこの日に、或いはこの日を目指して、或いはこの日から、私達が更に良いことを身につけることと存じます。母の日は胸に赤か白のカーネーションをつけて母への感謝を心に抱くだけでなくその感謝を母に言う日です。そして母が私達に望んでいること（お母さんが既に霊界に居られるとしても）を為す日です。母は何を望んでいるでしょうか。私は地上で最も高貴な、無私の愛を子供達にいつも与えている若い母、中年の母、年老いた母親達と出会いますが、特に身近かな2人から何を望んでいるかを聞いて見ました。68歳の母は『元気で、世の中のために役に立つこと、特に神様の御意にそって生きてくれているならばこんなに安心なことはない』と言ひ私の子供の母は『一口に言っただけで自立、つまり自分から良い生活を望んでしてくれること』と申しました。そうであるなら私達は神様の誠命を喜んで守って健康に生活し、それを報告して感謝するならば母への真の喜びを贈ることになるのです。「今年は病気が少なくなり言われなくても勉強が出来るようになりましたよ、お母さんどうもありがとう。」といえるように。「今年はお母さんこんな風に頑張りますよ見ていて下さい。」と決心の程を母の日に届く手紙に書込めるように。そして夫としてまた未来の夫として兄弟の皆さん、母達の愛を守るに相応しい者となろうではありませんか。このように考えて来ると神権の回復は私達に極めて重大なことになってきます。この神権を受け御意に従って行使することのみが私達を神様の御前に導いて下さるのですから。ジョセフスミスはオリバーカウドリと共にモルモン経を翻訳中バプテスマの記事に行き当たりその真意を求め、またおそらく自分達の罪のゆるしをも求めて真剣な祈りを捧げました。そうして天よりバプテスマのヨハネの訪問を受けました。彼等はバプテスマを求めてアロン神権を知らされ、それを受け互にバプテスマを受けたのです。私はこの感激的な予言者の記事に接する度に、その注意深い神様の配慮と一点一画をもゆるがせにしない仕方に驚かされます。それより後、メルケゼデク神権が回復され私達は遂に昔キリストの地上におられた時代と同じく完全に福音を実行する特権とそう

した場合に、終りには神の御前に真直ぐに立つことの出来る候補者としての資格を頂くことになりました。この出来事は末日聖徒イエスキリスト教会が生ける神様の教会であることを示していますので、いかに深く学んでも勉強しすぎることはありません。神様の教会は、神様の御意が常にはっきりと判明していなければなりません。不完全な人間が完全になるために、なにが完全か、を見出さなければなりません。それは人々の考えから出たものでなく神様のはっきりした御意の賛成の裏付けをもっているものでなければなりません。

何と私達は幸福な人々でしょうか。見て下さい。私達は与えられている責任を自ら喜んで果し、謙遜に正しい手引と指導者によって学び、熱心に実行しながら祈りますと、御意がはっきりと理解出来るのです。そこには弱いあやふやや、暗い失意はありません。兄弟の皆さんあなた方が神様の側に立つときに眺めることの出来る素晴らしい希望と自分を励まして高めようとする天使の助け、御霊の導きを逃すことのないよう神様の誠命を守る特権をフルに活用致しましょう。神権の回復を記念する日私は大声で自分に問うて見たいと思っています。「末日聖徒イエスキリスト教会は真の生ける神の教会です。なぜなら神様が与えて下さいました神様のお仕事、計画を遂行するのに必要な神権がありますから。そして私も神権者として正しく生活していますから」と言えるかどうかを。母の愛は殆んどキリストの愛に近く高い無私のものであります。そして母は神の御意に沿った生活をするように望んでいます。神様が実在しておられ私達も神様のような方に迄高められることを目的に地上に生を受けましたので、この地上の生活は如何な困難に出会っても大切な魂の学校で学んでいるのであり、そこにはいつも光明と希望があるのです。もし神様が実在でなく教会も神権もまやかしてあったら、向上する喜びは全く感じられず、母達の子供への願いは全然別ものになっていたことでしょう。全伝道部の兄弟姉妹の皆様この月に私達の努力を更に加えて、人格を高められる喜びを受けまたまだ福音を知らない方々に模範と親切とやさしい言葉によって福音を伝え、眼に見える母と父と夫と妻と友人と子供達に感謝の言葉を出しつつ、ひそかにひざまづいて天父なる神に心の思いを素直に祈ろうではありませんか。

『およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、「みたま」により聖められてその肉体再新さる。……またすべてこの神権を受け入る者はわれを受くるなり』

# ヒンクレー使徒ご夫妻来日される (米軍特別大会参加のため)



4月19日から富士山麓にて開かれた米軍特別大会参加のため、ヒンクレーご夫妻が来日されました。大会の後、香港、韓国を訪問され、4月29日帰国されました。



上段 左よりパーマ韓国伝道部長、ヒンクレー使徒小松伝道部長  
下段 ヒンクレーご夫妻と会員たち

上段 ヒンクレーご夫妻を囲むシンギングマザーズ  
下段 特別大会の小松伝道部長

## 支部だより

### 西宮支部

3月20日 三宮支部釜石一朝兄弟（地方評議員）と西宮支部、永吉節子姉妹が阿倍野礼拝堂にて多くの人々の祝福を受けご結婚なさいました。



# 岡 町 支 部

# 教 会 堂 建 築 進 む ！

昨年12月16日のくわ入れ式によって、スタートした岡町支部の建築は、ラーセン監督を中心に、建築宣教師、支部会員、京阪神地区兄弟姉妹たちの力によって築きあげられています。阿倍野支部に次いで西中央地方部で築かれるこの教会堂が、強力な兄弟姉妹の手足によって完成され、関西の地に主の業を確立する礎となりますように。

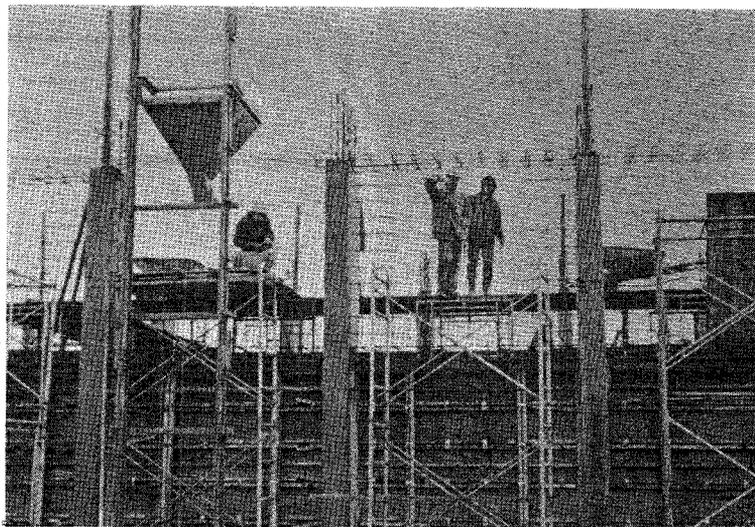
## 一 た く ま し い 建 築 宣 教 師 た ち 一

赤	間	(札 幌)	天	田	(群 馬)
堂	前	(横 浜)	福	嶋	(新 潟)
花	沢	(金 沢)	五	十	嵐
池	端	(小 樽)	金	子	(横 浜)
蔵	谷	(金 沢)	本	橋	(横 浜)
中	島	(名 古 屋)	落	合	(東 京 中 央)
尾	関	(岡 町)	斎	藤	(東 京 北)
笹	山	(京 都)	杉	江	(岡 町)
土	屋	(東 京 中 央)	若	林	(東 京 中 央)

( ) は 出 身 支 部, 敬 称 略 A B C 順

5 月 10 日 現 在

ラーセン監督







おかあさんとあつこ

## 母 の 日

### わたしのおかあさん

こむろあつこ

小学3年(横浜支部)

わたしのおかあさんは、おこるときはとてもこわくて、やさしい時はとてもやさしいのです。おかあさんは、目がねをかけています。すぐ目がいたくなるので、目の先生にいらっています。目ぐすりをさしています。朝と夜さします。

おかあさんは、おりょうりをつくるのが上手です。皆でごはんのお祈りをするとき、おいしくなりますようにと、おいのりするとおいしくなすぎて、ふとるふとるといいます。お友だちをよんで、ごちそうもしてくれます。

おかあさんは、うたがとても上手です。きょう会のコーラスにはいらっています。

それから、にわをつくるのが上手です。いま、つつじと、チューリップと、やぐるま草と、すみれと、つばきがさいています。

きょう、きいろの花のさいた木を、かってうえました。

おかあさんは、足がいたいので、いつもおこったようなかおをしています。

それでも、ときどきすもうをとってくれます。おかあさんが上にのって、私が下になります。ふとっているの、私はつぶれそうになります。それから、これは本当のことなんです。かいじゅうみたいにふざけてかみつきます。

おかあさんは、火よう日には、ふじょきょう会にでかけます。金よう日にも、かていほうもんにでかけました。大船に行くときはいなり森までおりにいて、バスにのっています。

おかあさんは、おばあちゃんのうちに、土よう日には、いつもいきます。

そして、いろいろ、おみやげをもっていきます。このまえはうちのつつじの木をもっていきました。でも、この木にはたくさん虫がついていました。

えきで、おとうさんとあつて、おかあさんと三人で、おばあちゃんのうちにいきました。わたしはおばあちゃんがつくった竹の子ごはんがおいしくて、三ばいぐらいたべてしまいました。かにもたべました。

おかあさんは、竹の子ごはんがおいしいとって、かにもあまりたべていませんでした。

日曜日は、おばあちゃんのうちからきょう会に行きます。まいしゅう、子供の日よう学校にまにあうようにつれていってくれます。でん車で一時間ぐらいのっていきます。その間おかあさんといろいろあそんだりべんきようしたりします。

私は、おとうさんには、おとうさんがいちばんすき、といっています。おかあさんにも、おかあさんがいちばんすき、といっています。わたしは両方ともいちばんすきです。

## 母

鈴木真理子(阿倍野支部)

(中学3年)

母は、いつも休みなしのような毎日を送っている。普通の家のおかあさん方も、いそがしいと思うが、子供の多いということ、大変苦労してきた。とてもやさしい母だなあと思うときがあると思えば、こわい顔をしておこるときもある。また、悪いことは、人の目の前でも、ようしゃなくおこる。そんな時には少し反抗するときもあるが、やっぱり、おかあさんていいなあと思う。教会のことでわからないことは、どんだん教えてくれるし、父の帰りがおそいのでいつも、母を中心に家族のお祈りをして聖書を読む。

「悪い行ないをしていたら、頭も悪くなるよ」と驚かされることもある。あの小柄な母から、大きな愛が、私達の心を豊かにしてくれる。私は、長女として、妹や弟達にお手本となるような行ないをして、母を喜ばせたい。

### おかあさんありがとう

5さいの まつしたみはと(東京北支部)

わたしのいえは、さっぽろからきたばかりなので、いそがしいのになんでもしてくれます。おこるときもありますが、よいこになってほしいからしかるのですといいました。おりよりしてくれるおかあさん。おせんとくしてくれるおかあさん。おそうじしてくれるおかあさん。だから、おかあさんありがとう。





## お母さん

稲垣 義信  
(小学校三年)

五月の第二日よう日は、母の日です。ぼくもおかあさんのことを少し考えたいと思います。ぼくの、おかあさんは五十二さいです。だからぼくのうちにはおねえさんやおにいさんがなん人もいるのでいろんなことで面倒みてくれます。だからおかあさんは、あまりぼくのことをかまいませんでした。でもおかあさんがいないと心ぼそいきがします。おかあさんは道を歩く時ゆっくり歩きます。でもまだまだ元気です。おかあさ

んは七人も子どもがいるので大きくするのにたいへんだったと思います。母の日はめいわくをかけないでおかあさんによろこばれたいと思います。学校でもよく勉強しておかあさんによろこばれたいと思います。おかあさんは、いつもメガネをかけています。おかあさんはメガネをかけていると目が大きく見えますがメガネをとると細い目をしています。いつもおかあさんによろこばれることをしたいと思います。

## 母よわれ美しき

1. 母よ、われ美しき樂しき夢見ぬ  
子守唄をうたう島の  
小さき巢の夢を  
子守唄をうたう島の  
小さき巢の夢を

3. 日かげも日向もゆき 海へと流るる  
その調べに、やがて眠り  
夢の島へ行きぬ  
その調べに、やがて眠り  
夢の島へ行きぬ

2. 蒼なす岩に流る、小川に百合咲く  
そこに臥して水けむりの  
やさしき歌ききぬ  
そこに臥して水けむりの  
やさしき歌ききぬ

4. 露に光るかんむり うるわしき天使  
われに触れて眠をさませば  
そこにいます母よ  
われに触れて眠をさませば  
そこにいます母よ

(讚美歌42番)



## わたしのお母さん

柳沢 真理  
(小学校四年)

お母さんは、毎朝六時ごろ起きて火をたきます。あたたかくなると、みんなが起きてきます。お母さんが、朝ごはんを作っている時わたしは、顔をあらうので、じまになると思う時もあります。みんながごはんを終るとお母さんは、お父さんのおべんとうを用意したり、くつをみがいたりします。お父さんがお仕事に出かけてしまうと、ふとんをあげたりします。そのころわたしと、弟は、学校へ行きます。それから妹の久美ちゃんがようち園に行くのでせいふく

をきせたりします。みんながいなくなるとおそうじをしたり、おせんたくでとてもいそがしいです。わたしは、「お母さんは、とても、いそがしいなあ。」といつも思います。母の日にわたしはおそうじやかいものなどをてつだってあげようと思っています。わたしが悪いことをすると、お母さんはとてもおこりますが、いつもは、とてもやさしいです。わたしは、そうゆうお母さんが大すきです。